

講義科目名称： 幼児の言葉

授業コード：

英文科目名称： Methods of Language Development

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
山盛 淳子			
授業形態：講義	ナンバリング：EET3131131		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p><b>【テーマ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ことばの機能を理解しことばを育む環境について関心を持つ。</li> <li>豊かなことばの感性と表現力を身につける。</li> </ul> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児がことばを獲得していく過程について説明できるようになる。</li> <li>保育者の基本的な姿勢や援助のあり方について事例を踏まえて説明できる。</li> <li>言葉を豊かにする教材を選択できるようになる。</li> </ul>
授業の概要	<p>乳幼児期は言葉獲得の重要な時期であり、ことばは生活の中で獲得される為幼児の生活を知り、発達筋道を学ぶことは幼児の発達を保障する保育者として最も肝要である。本授業では「ことばの発達過程」「生活の中のことば」「思いの伝えあい(互いの関係性)」等を軸に乳幼児のことばを育てる環境やことばの育ちを助ける保育者の関わりについて理論学習や実践的な基礎技術について学ぶ。</p> <p>学校現場における教員経験のある者が、その実務経験を活かし、幼稚園教育要領および保育所保育指針に示された内容について、具体的な例を紹介し、教材の活用等について解説する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、「言葉とは？」講義の概要 講義概要説明。沖縄でよく聞く、言葉に関する「ことわざ」に興味関心を持ち、乳幼児の言葉を育てる環境や言葉の育ちを助ける保育者の関わりについて理論学習や実践的な基礎技術について学ぶ本科目全体を把握する。</p> <p><b>【事前学習】</b> シラバスを確認し講義の概要を理解する。 <b>【事後学習】</b> 講義の概要から「言葉」についての感想を書き提出する。</p> <p>第2回 言葉をめぐるワークショップ 人間にとっての「ことば」の果たす役割を理解する。(ワークショップ)</p> <p><b>【事前学習】</b> 言葉で失敗したことを思い出しノートにまとめる。 <b>【事後学習】</b> 言葉の働きを具体的に考えノートにまとめる。</p> <p>第3回 保育内容としての「言葉」の歴史 保育内容としての言葉の歴史と保育士が知っておく関連法案について理解する。</p> <p><b>【事前学習】</b> 教科書第2章を読んで保育内容「言葉」の変遷を調べる。 <b>【事後学習】</b> 保育者として知っておくべき法令(学校教育法・児童福祉法・保育所保育指針・幼稚園教育要領)について調べる。</p> <p>第4回 保育内容としての「言葉」の歴史 「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」などに関連した保育内容としての領域「言葉」を理解する。</p> <p><b>【事前学習】</b> 3法令の改訂のポイントを調べる。 <b>【事後学習】</b> 5領域と求められる資質と10の姿についてノートにまとめる。</p> <p>第5回 乳幼児の発達と言葉①～0歳児～ 言葉を話す前(0歳児)の「言葉の育つ道すじ」の特徴について学ぶ。(DVD)</p> <p><b>【事前学習】</b> 「乳児が泣く」ときはどのようなときか考えノートにまとめる。 <b>【事後学習】</b> 乳児の泣くとき笑ったとき、指差したとき等保育者としてどのようかわればよいかノートにまとめる。</p> <p>第6回 乳幼児の発達と言葉②～1・2歳児～ 言葉が話せるようになってから(1・2歳児)の言葉の育つ道すじの特徴について学ぶ。(DVD)</p> <p><b>【事前学習】</b> 教科書p42を読み、1・2歳児の子どもが話す言葉の特徴をノートにまとめる。 <b>【事後学習】</b> 幼児語・幼字音を調べレポートにまとめ提出する。</p> <p>第7回 乳幼児の発達と言葉③～3歳児～ 言葉の育つ道すじ3歳児の特徴について学ぶ。</p> <p><b>【事前学習】</b> 3歳児の成長発達過程を調べノートにまとめる。 <b>【事後学習】</b> 教科書p50を読みノートにまとめる。</p> <p>第8回 乳幼児の発達と言葉④～4歳児～ 言葉の育つ道すじ4歳児の特徴について学ぶ。(DVD)</p> <p><b>【事前学習】</b> 4歳児の成長発達過程を調べノートにまとめる。 <b>【事後学習】</b> 大勢の中で「聞く一話す」を読み、感想をレポートに書く。</p> <p>第9回 乳幼児の発達と言葉⑤～5歳児～ 言葉の育つ道すじ5歳児について学び小学校接続期へ発展することを理解する。(DVD)</p>

	<p>【事前学習】 5歳児の成長発達過程を調べノートにまとめる。 【事後学習】 乳幼児期の「聞く―話す―読む―書く」の発達と小学校学習指導要領「国語科」のつながりについてノートにまとめる。</p> <p>第10回 言葉を育てる児童文化と地域文化①沖縄に伝わる昔話を学ぶ 言葉を育てる児童文化財と地域文化①（学生発表・前半反省）</p> <p>【事前学習】 沖縄の昔話を調べ、口演できるように練習する。 【事後学習】 口演した際の振り返り（声量・表情・身振り）感想を書き提出する。</p> <p>第11回 言葉を育てる児童文化と地域文化②昔話の地域を調べる 言葉を育てる児童文化財と地域文化②（学生発表・後半まとめ）</p> <p>【事前学習】 生まれ育った地域の昔話を調べレポートにまとめる。 【事後学習】 沖縄の昔話を聞くことで子どもの中に育つのは何か考えレポートにまとめ提出する。</p> <p>第12回 言葉を育てるための保育者の関わり・役割 言葉を育むための保育者のかかわり・役割について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 話し合い場面でやけんか・トラブル場面での保育者の役割を読みノートにまとめる。 【事後学習】 保育者の「ことばかけ」とはどのようなことか教科書を読みノートにまとめる。</p> <p>第13回 指導計画と「ことば」 言葉を育む「わらべ歌」を調べ、歌ったり手遊びしたりして保育者としての資質を高める。</p> <p>【事前学習】 自分の知っているわらべ歌をノートに書き出す。 【事後学習】 歌いながら手遊びができるようにする。</p> <p>第14回 家庭との連携と「ことば」 人間関係や言葉を育む「ごっこ遊び」を実践し意義を考える。（模擬保育）</p> <p>【事前学習】 自分の幼少のころの遊びを想起しノートにまとめる。 【事後学習】 ごっこ遊びから5領域を見つけ、5領域の関係を理解する。</p> <p>第15回 ことばをめぐる新たな課題 「言葉」をめぐる新たな課題（文明・メディアの発達・早期教育・外国教育・異文化のコミュニケーション）があることを理解する。</p> <p>【事前学習】 社会の便利さは子どもの成長にどのような影響があるか考えノートにまとめる。 【事後学習】 文明・メディアの発達等の影響をノートにまとめる。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 言葉を育てるごっこ遊びをグループで意見交換し実践する。 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 乳幼児期の言葉の育ちをDVD（子どもの言葉）で確認する。 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	『実践につなぐ 言葉と保育』近藤幹生 他 2019年2月発行
参考書	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館</p>
評価方法	定期試験：30% 課題・実技・演習への取り組み：30% 授業態度：15% 受講者の発表：10% 演習：15%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p><input type="checkbox"/> 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 <input type="checkbox"/> 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <input type="checkbox"/> 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 <input type="checkbox"/> 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	提出物は期限厳守、実技は必須・保育科としての自覚に基づき自身が言葉を豊かに話せる様に努める
オフィスアワー	(仮) 毎週木曜日 3限目 山盛研究室
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価後に返却します。

講義科目名称： 幼児の生活

授業コード：

英文科目名称： Life Skill

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
島袋 浩子			
授業形態：演習	ナンバリング：EET3232141		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	『私達の暮らしと保育』を考え、社会人として、保育者としてのマナーを身につける。さらに、子どもの生活習慣の自立について学ぶ。知識理解として幼児期の基本的な生活習慣について理解する。乳幼児期の発達と生活技能について関心を持つ。また、自らの生活を振り返り、自身の資質を高める。
授業の概要	人として生きる力の基礎、特に基本的な生活習慣は幼児期に育まれることを鑑み、保育者としての指導の在り方を探求し事例等を通して、理論や実技を身に付ける。また、自らの生活を律することができる。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、幼児の基本的な生活習慣について考える 乳幼児期の子どもの生活や基本的な生活習慣の重要性について理解し、近年の家庭教育力や子育て機能等が低下していること、また、沖縄県の現状等について関心をもつ。 【事前学習】 授業概要について確認する。 【事後学習】 自らの生活を振り返り、自身の資質を高められるようにしていく。</p> <p>第2回 乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」①食事の習慣 食生活における食情報の氾濫や安全の問題等を通して、幼児期には食べる喜びや楽しさ、食べ物への興味・関心、よく噛んで何でも食べられる食生活の基本を身につけさせるためのポイントについて理解することができる。 【事前学習】 テキストP8～32を読み、幼児期の食事の習慣について調べる。 【事後学習】 幼児期の食事の習慣の要点をまとめる。</p> <p>第3回 乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」②睡眠の習慣 近年の子ども達の睡眠状況について関心を持ち、睡眠の重要性や発達との関わりについて理解することができる。 【事前学習】 テキストP34～44を読み、幼児期の睡眠の習慣について調べる。 【事後学習】 幼児期の睡眠の習慣の要点をまとめる。</p> <p>第4回 乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」③排泄の習慣 子どもが安心して排泄できる環境についてディスカッションを行い、心地よい排泄の習慣が身に付く環境の工夫ができる。 【事前学習】 テキストP46～64を読み、幼児期の排泄の習慣について調べる。 【事後学習】 幼児期の排泄の習慣の要点をまとめる。</p> <p>第5回 乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」④着脱衣の習慣 衣服の役割や重要性についてディスカッションを行い、幼児の発達に即した衣服の着脱の仕方等を理解し、子どもへの支援ができるようになる。 【事前学習】 テキストP66～88を読み、幼児期の着脱衣の習慣について調べる。 【事後学習】 幼児期の着脱衣の習慣の要点をまとめる。</p> <p>第6回 乳幼児期の子どもの生活「基本的な生活習慣」⑤清潔の習慣 幼児期のうちから身に付けなければならない大事なことであることをディスカッションを行い、健康に暮らすために欠くことのできない習慣であることを理解する。 【事前学習】 テキストP90～117を読み、幼児期の着脱衣の習慣について調べる。 【事後学習】 幼児期の清潔の習慣の要点をまとめる。</p> <p>第7回 乳幼児期の子どもの生活 「社会的生活習慣」 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園の関連領域「人間関係」の確認や保育現場において社会性を身につけさせるための保育者の関わりについてグループ協議を行い発表する。 【事前学習】 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の社会的生活習慣について関連領域を調べる。 【事後学習】 活動の中で、人間関係やことばの育ち等多様なねらいが達成できるように総合的な視点が持てる ようになる。</p> <p>第8回 常識マナー・保育現場での心構え 子どもや保護者、先輩保育者等と接する時の基本的な姿勢、また社会人としてのマナー等について学び、保育者として社会人としての心得やマナーを身に付けていく。 【事前学習】 保育実習等を振り返り、常識マナーや保育現場での心構えについて考察する。 【事後学習】 日々の生活において、自分磨きがしっかりできるようにする。</p> <p>第9回 はさみや箸の持ち方等 近年、簡単で便利な生活、直接手を使う体験や見て学ぶ機会が減少していることについて関心を持ち、正しいもち方、使い方を演習を通して自身を振り返る。 【事前学習】 毎日の生活の中で、手を使うことの大切さについて考察する。 【事後学習】 生活に必要な動作や技術を一つ一つ丁寧にを行うようにする。</p> <p>第10回 課題発表 保育実習に於いて、基本的な生活習慣の具体的な場面に視点を持ち、観察したことをまとめて発表することができる。 【事前学習】 基本的な生活習慣の一つの習慣について考察しまとめる。 【事後学習】 授業後にレポートを提出する。</p> <p>第11回 園だより・学級だよりの作成 園と家庭を結ぶ大切な架け橋の役目を果たし、教育効果を深めるものであることを学び、現在の社会状況は情報過多であることから、読んでもらえる、喜ばれる園だよりを工夫し作成すること</p>

	<p>ができる。</p> <p>【事前学習】園便り・学級だよりの役割について考察し、必要な項目等をまとめる。</p> <p>【事後学習】授業後に作成したものを提出する。</p> <p>第12回 折り紙の魅力について ディスカッションや演習を通して、折り紙の歴史や保育現場での活用等について知識・技能を習得する。</p> <p>【事前学習】折り紙の魅力について考察する。</p> <p>【事後学習】折り紙を折ることで、子どもにどんなことが培われるかまとめる。</p> <p>第13回 廃品を利用した製作① 限りある資源を大切に使い、廃棄物を減らすことで自然環境への負担を押さえることの大切さに関心を持ち、作品の製作を通して知識・理解を習得する。</p> <p>【事前学習】紙の原料や消費状況等について考察する。</p> <p>【事後学習】環境問題全体に気付き、紙の無駄遣いをしないように節約に心掛ける。</p> <p>第14回 廃品を利用した製作② 廃品を再利用することで形が変わることの意外性に気づき、作品の製作を通して技能を習得する。</p> <p>【事前学習】廃品の再利用の大切さについて考察する。</p> <p>【事後学習】環境問題を意識し、廃品の再利を楽しめるようになる。</p> <p>第15回 伝承遊び 子どもの伝承遊びの現状と意義や遊び方等を学び、実際におもちゃで遊んだり、作品を作ったりして知識・技能を習得する。</p> <p>【事前学習】伝承遊びの意義について考察する。</p> <p>【事後学習】伝承遊びで培われる力をまとめ、保育実践に活かすことができる。</p> <p>第16回 定期試験 定期試験を受験する。</p> <p>【事前学習】講義で学んだ基本的な生活習慣等について振り返る。</p> <p>【事後学習】社会生活で広く行われている生活習慣について理解し、その行動が身に付くように自らの生活を振り返り、自身の資質を高める。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 { }</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 { }</p> <p>3) ICTの活用 { }</p> <p>4) 初年次教育 { }</p>
テキスト	谷田貝公昭 監修 2015年 『6歳までのしつけと子どもの自立』合同出版
参考書	<p>厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p> <p>子どもとマスターする49の生活技術、その他、必要に応じて紹介する。</p>
評価方法	<p>期末試験および小テスト、授業中に出すレポート課題、受講態度、演習、受講者の発表による総合評価</p> <p>総合評価(成績) = 定期試験(40%) + 小テスト・課題(30%) + 演習・発表(20%) + 課題提出の状況(10%)</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>【○】 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【○】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	課題の提出については、様式と期限を守ること。
オフィスアワー	授業終了後、教室等で質問を受付ける。
課題に対するフィードバック方法	レポートのフィードバックは最終授業時に行う。

講義科目名称： 飼育栽培

授業コード：

英文科目名称： Feeding and Growing

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
照屋 建太			
授業形態：演習	ナンバリング：EET3131161		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 講義では、飼育や栽培を通して、自然と親しみ、生き物の「命」の大切さについて実体験しながら学ぶ。また、保育活動の中で日常化されている飼育や栽培の基本について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 多くの保育現場で飼育や栽培が行われている。乳幼児にその影響がどのようにあるのか、そして、なぜ飼育や栽培を行う必要があるかについて実際に活動を行うことで理解することを目標とする。</p>
授業の概要	<p>“生命”への慈しみを育てる保育が強調される中、保育者は小動物・植物への関わりが十分とは言えない。また、生き物を育てる“場”が減り、子どもたちは生物の命の尊さを知る機会が少なくなっている。そこで、実際に生き物の飼育活動を行い、人、社会、自然及び自分自身の生活についても考える。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、飼育栽培の意義について、グループ分け飼育や栽培活動がなぜ保育に必要か講義し、実際に飼育や栽培するグループに分かれ活動内容を考える。 【事前学習】 保育において飼育や栽培とは何か考えておくこと。 【事後学習】 グループ活動の内容について考えておくこと。</p> <p>第2回 基礎学習①（植物の分類と特徴） 植物の分類や特徴を覚える。また、沖縄県内で飼育されている動物について把握する。 【事前学習】 基本的な植物の特徴について事前に調べておくこと。 【事後学習】 講義内容を振り返り、まとめておくこと。</p> <p>第3回 飼育栽培実習①（生き物を世話するための準備） 生き物の世話をするために必要な道具を準備し、環境を整える。 【事前学習】 グループで責任を持つ生き物の育て方を調べておくこと。 【事後学習】 保育園や幼稚園、認定こども園における飼育の意義についてまとめておくこと。</p> <p>第4回 飼育栽培実習②（生き物の世話における注意点） グループで選択した飼育動物や栽培植物の飼育場の注意点をしっかり理解する。その後、世話をを行う。 【事前学習】 生き物の世話における注意点を調べておくこと。 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行うこと。観察ノートに記入しておくこと。</p> <p>第5回 基礎学習②（動物の分類と特徴） 動物の分類や特徴を覚える。また、沖縄県内で飼育されている動物について把握する。 【事前学習】 基本的な動物の分類と特徴を調べておくこと。 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行うこと。観察ノートに記入しておくこと。</p> <p>第6回 飼育栽培実習③（生き物の環境維持） グループで世話をしている生き物の環境管理をしっかりと継続する。 【事前学習】 生き物の環境維持について考えておくこと。 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行うこと。観察ノートに記入しておくこと。</p> <p>第7回 飼育栽培実習④（生き物の観察） グループで世話をしている生き物の変化に気付き、環境維持に努める方法を理解し、実践する。 【事前学習】 生き物の環境維持と観察方法を考えておくこと。 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行うこと。観察ノートに記入しておくこと。</p> <p>第8回 基礎学習③（飼育や栽培における土の影響） 生き物への土壌の影響を学び、理解する。 【事前学習】 基本的な土壌の性質を調べておくこと。 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行うこと。観察ノートに記入しておくこと。</p> <p>第9回 飼育栽培実習⑤（生き物の観察と病気） 生き物の病気や害虫の種類、そしてその対処方法について学び、実践する。 【事前学習】 生き物の環境維持を行い、病気や害虫について調べておくこと。 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行うこと。観察ノートに記入しておくこと。</p> <p>第10回 飼育栽培実習⑥（生き物の命の大切さ） 生き物を育てる上で、命の大切さ、自然の尊さについて考える。 【事前学習】 生き物の環境維持をしっかりと行い、生き物の命の尊さについて考えること。 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行うこと。観察ノートに記入しておくこと。</p> <p>第11回 基礎学習④（飼育や栽培における天気の影響） 生き物への天気の影響を学び、理解する。 【事前学習】 基本的な天気について特徴を調べておくこと。 【事後学習】 講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行うこと。観察ノートに記入しておくこと。</p>

	<p>と。</p> <p>第12回 レポート作成①（レポートの書き方） グループ発表に向けてのレポート作成を行う。 【事前学習】生き物の環境維持をしっかり行うこと。レポートのまとめ方について調べておくこと。 【事後学習】講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行うこと。観察ノートに記入しておくこと。指摘を受けたレポートについて修正すること。</p> <p>第13回 レポート作成②（レポートとパワーポイント作成の要点） グループ発表に向けてのレポート作成およびパワーポイントの作成の要点を学ぶ。 【事前学習】レポートのまとめを提出して添削を受けること。パワーポイントの作成方法を調べておくこと。 【事後学習】講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行うこと。観察ノートに記入しておくこと。指摘を受けたレポートについて修正すること。</p> <p>第14回 パワーポイントの作成とレポートの作成 グループ発表に向けてのレポート作成を行い、提出する。また、パワーポイントの作成を行う。 【事前学習】レポートの最終提出を行うこと。パワーポイントを作成しアドバイスを受けること。 【事後学習】講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行うこと。観察ノートに記入しておくこと。指摘を受けたレポートについて修正すること。</p> <p>第15回 小テスト・グループ発表・まとめ 各グループの飼育および栽培の結果について、レポートとともにパワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。 【事前学習】プレゼンテーションの準備をしっかり行い、専門用語を理解しておくこと。 【事後学習】講義内容を踏まえ、生き物の世話を必ず行うこと。観察ノートに記入しておくこと。各グループの発表を受けて自分で考えをまとめておくこと。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p> <p>必要に応じてプリントを配る。</p>
参考書	その他、必要に応じて紹介する。
評価方法	レポート（20%）、発表（20%）、責任（20%）、受講態度（30%）、小テスト（10%）
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>【○】2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【○】3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	講義には積極的に参加し、レポートは参考文献を利用してまとめること。提出物の提出期限をしっかりと守ること。レポート発表は、パワーポイントを用いて行い、質問に対して的確に答えること。生き物の世話をしっかり行うこと。欠席した場合は、講義計画に関するテーマを自ら設定し、1200字（A4用紙）のレポートを提出すること。
オフィスアワー	毎週月曜日 3限目 照屋研究室（西研3-9）
課題に対するフィードバック方法	提出されたレポートは、講義最終日に各グループまとめて返却する。

講義科目名称： 音楽 I

授業コード：

英文科目名称： Music I

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
仲松あかり・大山伸子・糸洲のぶ子・神谷智子・古謝麻耶子			
授業形態：演習	ナンバリング：EET3131101		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育者として必要な音楽の基礎的技術（ピアノ・楽典・ソルフェージュ）の習得</p> <p>【到達目標】 子どもの音楽的感性を育てるために、保育者として必要な音楽の基礎を理解する。音楽の知識や技術を習得し、幼児教育現場や保育現場で音楽の能力が発揮できるようになる。意欲的に授業と自主練習に取り組み、課題曲を修了する。</p>
授業の概要	<p>子どもの生活と音遊び、歌遊び、リズム遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。授業形態は、一斉指導と個別指導を導入し、大学ピアノ教本では運指法、読譜などの初歩的なスキルを獲得しながら、簡単な幼児曲やマーチが弾けるようにする。また、「音楽Ⅱ」に継続して学習できるよう、基本的な音楽理論の理解とピアノ奏法、歌唱の習熟を目指す（授業は予習型）。幼稚園・高等学校等の学校現場や音楽教室において実務経験のある担当教員が、その経験を活かし、教育現場における音楽の基礎的技術を実践的に指導する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明 ・ピアノ奏法のウォーミングアップ 【事前学習】「大学ピアノ教本」のp.4に目を通す。 【事後学習】ピアノ奏法のウォーミングアップを復習し、獲得する。</p> <p>第2回 運指と読譜 『大学ピアノ教本』No.1～37はグループレッスンで進める。 ・『大学ピアノ教本』No.1～4 【事前学習】教本No.1～4を練習する。 【事後学習】教本No.1～4をスムーズに弾けるよう復習し、楽譜が読めるようになる。</p> <p>第3回 ハ長調の音階 ・『大学ピアノ教本』No.5, 9, 11 ・ハ長調の音階（1オクターヴ）、調名、1度、5度の和音（I、V） 【事前学習】教本No.5, 9, 11を練習する。 【事後学習】教本No.5, 9, 11をスムーズに弾けるよう復習し、調名や和音についても理解を深める。</p> <p>第4回 ハ長調の属7の和音 ・『大学ピアノ教本』No.13, 17, 21 ・属7度の和音（V7） ・分散和音の伴奏形 【事前学習】教本No.13, 17, 21を練習する。 【事後学習】教本No.13, 17, 21をスムーズに弾けるよう復習し、様々な分散和音の伴奏形を獲得する。</p> <p>第5回 ハ長調の音遊び ・『大学ピアノ教本』No.24, 25 ・4度の和音（IV） 【事前学習】教本No.24, 25を練習する。 【事後学習】教本No.24, 25をスムーズに弾けるよう復習し、ハ長調の音遊びを考案し試す。</p> <p>第6回 ヘ長調の音遊び ・『大学ピアノ教本』No.27, 30, 32 ・ヘ長調の調名、音階（1オクターヴ）及び主要三和音 【事前学習】教本No.27, 30, 32を練習する。 【事後学習】教本No.27, 30, 32をスムーズに弾けるよう復習し、ヘ長調の音遊びを考案し試す。</p> <p>第7回 ト長調の音遊び ・『大学ピアノ教本』No.33, 37 ・ト長調の調名、音階（1オクターヴ）及び主要三和音 【事前学習】教本No.33, 37を練習する。 【事後学習】教本No.33, 37をスムーズに弾けるよう復習し、ト長調の音遊びを考案し試す。</p> <p>第8回 調名、音階、和音のまとめ 『大学ピアノ教本』No.40～（No.40～No.65）は個人レッスンで進める（学生の習熟度によって進度が異なる）。 ・『大学ピアノ教本』 ・音階、調名（ハ長調・ヘ長調・ト長調）及び和音（I・IV・V・V7）のまとめ 【事前学習】教本No.40, 43を練習する。 【事後学習】それぞれの調の音階や和音を、弾く、書くなどして、復習する。</p> <p>第9回 リズム遊び①－4分の4拍子 ・マーチ「ビーマーチ」、「手をたたきましょう」 【事前学習】「ビーマーチ」と「手をたたきましょう」を練習する。 【事後学習】「ビーマーチ」と「手をたたきましょう」をスムーズに弾けるよう復習し、4分の4拍子のリズム遊びを考案し試す。</p> <p>第10回 リズム遊び②－4分の3拍子 ・『大学ピアノ教本』No.51、他</p>

	<p>【事前学習】 教本No. 45, 49, 51を練習する。  【事後学習】 教本No. 45, 49, 51をスムーズに弾けるよう復習し、4分の3拍子のリズム遊びを考案し試す。</p> <p>第11回 リズム遊び③ー4分の2拍子  ・マーチ「かけあしマーチ」  ・『大学ピアノ教本』  【事前学習】 「かけあしマーチ」と教本No. 53, 56を練習する。  【事後学習】 「かけあしマーチ」と教本No. 53, 56をスムーズに弾けるよう復習し、4分の2拍子のリズム遊びを考案し試す。</p> <p>第12回 歌遊びと幼児曲  ・幼児曲「とんぼのめがね」  ・『大学ピアノ教本』  【事前学習】 「とんぼのめがね」と教本No. 60を練習する。  【事後学習】 「とんぼのめがね」と教本No. 60をスムーズに弾けるよう復習し、歌遊びを考案し試す。</p> <p>第13回 歌遊びと讃美歌  ・讃美歌「だれがつくったの」  ・『大学ピアノ教本』  【事前学習】 「だれがつくったの」と教本No. 63, 65を練習する。  【事後学習】 「だれがつくったの」と教本No. 63, 65をスムーズに弾けるよう復習し、歌遊びを考案し試す。</p> <p>第14回 8分の6拍子の幼児曲  ・幼児曲「思い出のアルバム」  ・任意の曲  【事前学習】 「思い出のアルバム」を練習する。  【事後学習】 「思い出のアルバム」をスムーズに弾けるよう復習し、任意の曲にも取り組む。</p> <p>第15回 マーチ、幼児曲、讃美歌、大学ピアノ教本、任意の曲のまとめ  ・任意の曲、試験曲  ・これまでの学習のまとめ  【事前学習】 できる限り多く、任意の曲を練習する。  【事後学習】 任意の曲をスムーズに弾けるよう復習し、試験曲も練習する。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【 】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】
テキスト	大学音楽教育研究グループ編著『教職課程のための 大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』教育芸術社 2012年 一宮道子編『保育用ピアノマーチ集』全音楽譜出版社 2010年 井口太代表編著『新・幼児の音楽教育ー幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導ー』朝日出版社 2018年 必要に応じて適宜コピー資料を配布する
参考書	文部科学省 「幼稚園教育要領」フレーベル館 2017年 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 2018年 厚生労働省 「保育所保育指針」フレーベル館 2017年 厚生労働省 「保育所保育指針解説」フレーベル館 2018年 必要に応じて適宜コピー資料を配布する
評価方法	①演習30%（必修課題曲の修了） ②定期試験20%（実技テスト） ③小テスト・授業内レポート20%（楽典の簡単な筆記テストやレポート） ④受講者の発表10% ⑤受講態度20%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【○】1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 【○】2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	毎時間レッスンカードに自己の受講状況や進度を記録し提出する。 授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。 日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。
オフィスアワー	仲松：木曜日3限目 仲松研究室 大山：授業終了後に質問を受け付けます。 糸洲：授業終了後に質問を受け付けます。 神谷：授業終了後に質問を受け付けます。 古謝：授業終了後に質問を受け付けます。

課題に対する フィードバック方 法	課題については、採点后返却する。
-------------------------	------------------

講義科目名称： 音楽Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Music Ⅱ

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
仲松あかり・大山伸子・糸洲のぶ子・神谷智子・古謝麻耶子			
授業形態：演習	ナンバリング：EET3231202		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p><b>【テーマ】</b> 「音楽Ⅰ」での学習成果を踏まえ、幼児教育現場や保育現場で活用度の高い幼児曲やマーチ曲がスムーズに演奏できるスキルと表現法を修得する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 楽典等の知識を深め、様々な拍子や調を理解して譜読みができる。 幼児教育現場や保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが、数多く修得できるようになる。 意欲的に授業と自主練習に取り組み、課題曲を修了する。</p>
授業の概要	<p>「音楽Ⅰ」の基礎的な学習を踏まえ、保育における音楽教材等の活用及び作成と、保育の音楽的環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。大学ピアノ教本の学習は、読譜力やピアノ奏法の技術が更に高められるようにする。幼児曲、マーチの学習は幼稚園、保育所における生活の歌、季節や行事の歌、遊び歌など、幼児教育現場や保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが数多く習得できるようにする。</p> <p>授業形態は、習熟度に応じ個別指導を中心に行う（予習型）。幼稚園・高等学校等の学校現場や音楽教室において実務経験のある担当教員が、その経験を活かし、教育現場における音楽の基礎的技術を実践的に指導する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明 ・「音楽Ⅰ」の復習 【事前学習】「音楽Ⅰ」で学習した曲を練習する。 【事後学習】講義概要説明を受け、「音楽Ⅱ」の課題曲に取り組む。</p> <p>第2回 歌遊び、幼児曲①-「おはよう」 ・個別レッスンを中心に行い、習熟度によって進度が異なる。 【事前学習】「おはよう」を練習する。 【事後学習】「おはよう」の弾き歌いがスムーズにできるよう復習し、歌遊びを覚える。</p> <p>第3回 8分の6拍子の復習 ・『大学ピアノ教本』No. 67 【事前学習】教本No. 67を練習する。 【事後学習】教本No. 67をスムーズに弾けるよう復習し、8分の6拍子の理解を深める。</p> <p>第4回 歌遊び、幼児曲②-「おかえりのうた」 ・ペダルの使い方 【事前学習】「おかえりのうた」を練習する。 【事後学習】「おかえりのうた」の弾き歌いがスムーズにできるよう復習し、歌遊びを覚える。</p> <p>第5回 幼児曲③-「たんじょう日」 ・『大学ピアノ教本』No. 70 【事前学習】「たんじょう日」と教本No. 70を練習する。 【事後学習】「たんじょう日」の弾き歌いと、教本No. 70をスムーズに弾けるよう復習する。</p> <p>第6回 幼児曲④-「たなばたさま」 ・『大学ピアノ教本』No. 71 【事前学習】「たなばたさま」と教本No. 71を練習する。 【事後学習】「たなばたさま」の弾き歌いと、教本No. 71をスムーズに弾けるよう復習する。</p> <p>第7回 リズム遊び、幼児曲⑤-「はをみがきましょう」 ・『大学ピアノ教本』No. 74 【事前学習】「はをみがきましょう」と教本No. 74を練習する。 【事後学習】「はをみがきましょう」の弾き歌いと、教本No. 74をスムーズに弾けるよう復習する。</p> <p>第8回 リズム遊び、マーチ①-「おお牧場はみどり」 ・『大学ピアノ教本』No. 79 【事前学習】「おお牧場はみどり」と教本No. 79を練習する。 【事後学習】「おお牧場はみどり」と教本No. 79をスムーズに弾けるよう復習する。</p> <p>第9回 マーチ②-「ブルーセスマーチ」 ・ニ長調の音階 【事前学習】「ブルーセスマーチ」を練習する。 【事後学習】「ブルーセスマーチ」をスムーズに弾けるよう復習し、ニ長調についても理解を深める。</p> <p>第10回 転調について ・『大学ピアノ教本』No. 81, 93 【事前学習】教本No. 81, 93を練習する。 【事後学習】教本No. 81, 93をスムーズに弾けるよう復習し、転調についても理解を深める。</p> <p>第11回 音遊び（1オクターブ以上） ・『大学ピアノ教本』No. 94 【事前学習】教本No. 94を練習する。 【事後学習】教本No. 94をスムーズに弾けるよう復習し、音遊び（1オクターブ以上）を考案し試す。</p> <p>第12回 音遊び、讃美歌</p>

	<p>・讃美歌「ひかりひかり」、「お星がひかる」  <b>【事前学習】</b> 「ひかりひかり」を練習する。  <b>【事後学習】</b> 「ひかりひかり」の弾き歌いがスムーズにできるよう復習する。</p> <p>第13回 幼児曲⑥-「かたつむり」  ・任意の曲（習熟度による進度）  <b>【事前学習】</b> 「かたつむり」と、任意の曲を練習する。  <b>【事後学習】</b> 「かたつむり」の弾き歌いがスムーズにできるよう復習し、他の曲にも取り組む。</p> <p>第14回 幼児曲、マーチ、讃美歌、大学ピアノ教本、任意の曲のまとめ  ・これまで学習した曲のまとめ（習熟度による進度）  <b>【事前学習】</b> 必修曲の修了を目指し、既に修了した場合、より多くの曲を練習する。（習熟度による進度）  <b>【事後学習】</b> これまでの学習を振り返ると共に、新たな任意の曲に取り組む。</p> <p>第15回 幼児曲、マーチ、讃美歌、大学ピアノ教本、任意の曲及び全体のまとめ  ・任意の曲、試験曲  ・これまでの学習全体のまとめ  <b>【事前学習】</b> できる限り多く、任意の曲を練習する。  <b>【事後学習】</b> 任意の曲をスムーズに弾けるよう復習し、試験曲も練習する。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
テキスト	大学音楽教育研究グループ編著『教職課程のための 大学ピアノ教本 パイエルとツェルニーによる展開』教育芸術社 2012年 一宮道子編『保育用ピアノマーチ集』全音楽譜出版社 2010年 井口太代表編著『新・幼児の音楽教育—幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導—』朝日出版社 2018年 必要に応じて適宜コピー資料を配布する
参考書	文部科学省 「幼稚園教育要領」フレーベル館 2017年 文部科学省 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 2018年 厚生労働省 「保育所保育指針」フレーベル館 2017年 厚生労働省 「保育所保育指針解説」フレーベル館 2018年 必要に応じて適宜コピー資料を配布する
評価方法	①演習30%（必修課題曲の修了） ②定期試験20%（実技テスト） ③小テスト・授業内レポート20%（楽典の簡単な筆記テストやレポート） ④受講者の発表10% ⑤受講態度20%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<b>【○】</b> 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 <b>【○】</b> 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <b>【○】</b> 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 <b>【○】</b> 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	毎時間レッスンカードに自己の受講状況や進度を記録し提出する。 授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。 日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。
オフィスアワー	仲松：木曜日 2限目 仲松研究室 大山：授業終了後に質問を受け付けます。 糸洲：授業終了後に質問を受け付けます。 神谷：授業終了後に質問を受け付けます。 古謝：授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	課題については、採点后返却する。

講義科目名称： 図画工作 I

授業コード：

英文科目名称： Art and Craft Education I

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
佐久本邦華・荻谷洋介			
授業形態：演習	ナンバリング：EET3132121		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p><b>【テーマ】</b> 図画工作 I では平面造形の基本的な表現手法と材料・用具の経験が大きな目標となる。クレヨンや絵具といった描画材から、自然物や食材まで、子どもを取り巻く様々なマテリアルに実際に触れ、扱うことによって、素材の特性に対し理解を深める。さらに、それらを幼児教育の場で活かせるよう活動案を提案する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 子どもの遊びを豊かに展開するために必要な、造形表現活動に関する知識と技術を習得する。演習を通し表現活動に係る教材の活用及び作成について学び、保育の環境構成について考え、具体的展開のための技術を習得する。</p>
授業の概要	<p>子どもの造形表現における発達段階を踏まえ、造形における基本的な素材や教材・用具の特性を理解し、それらを通じた表現技法について学ぶ。また、終盤には具体的な図画工作の活動案の提案・模擬授業・振り返りを行い、実践力を養う。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明—画像や映像資料を使用し、図画工作 I の目的と内容について説明を行う。 図画工作 I の目的と内容について説明する。 画像や映像資料を使用し、造形活動における子どもの表現について確認する。</p> <p><b>【事前学習】</b> 講義シラバスを読んでおく <b>【事後学習】</b> 実践後の気づきと感想をまとめる</p> <p>第2回 色と形を楽しむ表現①ドリップング 絵画の表現技法の一つであるドリップングをさまざまな支持体や描画用具で実践し、動きと表現の連動性について確認し、表現を楽しむ。</p> <p><b>【事前学習】</b> 造形指導法で学んだ「偶然性を生かしたさまざまな表現技法」を復習しておく <b>【事後学習】</b> 実践を通しての気づきと学びをまとめる</p> <p>第3回 色と形を楽しむ表現②絵具流し・たらし絵・吹き流し 絵画の表現技法の一つである絵具流し、たらし絵、吹き流し等を実践し、各技法の表出の違いについて確認し、表現を楽しむ。</p> <p><b>【事前学習】</b> 造形指導法で学んだ「偶然性を生かしたさまざまな表現技法」を復習しておく <b>【事後学習】</b> 実践を通しての気づきと学びをまとめる</p> <p>第4回 色と形を楽しむ表現③—スクラッチ 絵画の表現技法の一つであるスクラッチを実践し、表現を楽しむ。</p> <p><b>【事前学習】</b> 造形指導法で学んだ「偶然性を生かしたさまざまな表現技法」を復習しておく <b>【事後学習】</b> 実践を通しての気づきと学びをまとめる</p> <p>第5回 色と形を楽しむ表現④—コラージュ・フロタージュ 表現技法の一つであるコラージュやフロタージュを実践し、各技法の表出の違いについて確認し、表現を楽しむ。</p> <p><b>【事前学習】</b> 造形指導法で学んだ「偶然性を生かしたさまざまな表現技法」を復習しておく <b>【事後学習】</b> 実践を通しての気づきと学びをまとめる</p> <p>第6回 いろいろなもので描く 筆だけではなく、さまざまな用具で絵を描くことができる。また、手や足でも描くことができる。筆以外の物で絵を描き、表現を楽しむ。</p> <p><b>【事前学習】</b> 造形指導法で学んだ「触覚的アプローチを用いた表現活動の実践」を復習しておく <b>【事後学習】</b> 実践を通しての気づきと学びをまとめる</p> <p>第7回 紙以外の物に描く 画用紙だけではなく、新聞紙やロール紙、地面など、様々な場所に絵を描くことができる。画用紙以外の物へ描画した時の感じ方や表出の違いを確認し、表現を楽しむ。</p> <p><b>【事前学習】</b> 画用紙以外の支持体について、どういうものが挙げられるか考えておく <b>【事後学習】</b> 実践を通しての気づきと学びをまとめる</p> <p>第8回 美術教育史—乳幼児の表現はどう捉えられてきたのか 世界と日本の教育史の流れから、特に美術表現に関する事柄に焦点を当て、乳幼児の表現がどう捉えられてきたのかを学ぶ。</p> <p><b>【事前学習】</b> 事前に配布された資料を読んでおく <b>【事後学習】</b> 授業を通して得た気づきと学びをまとめる</p> <p>第9回 幼児期に見られる描画の発達段階 幼児の造形表現における発達段階について学ぶ。1～2歳児、3～4歳児、5～6歳児で描画材の使い方がどう変わってくるのか、実際に体験しながら確認し、発達段階に合った環境整備、導入・展開の仕方など、現場での例を示しながら違いについて理解する。</p>

	<p>【事前学習】 事前に配布された資料を読んでおく 【事後学習】 授業を通して得た気づきと学びをまとめる</p> <p>第10回 色彩の基本と配色の調和について 身の回りにある色彩について学ぶ。また、色彩が感情を表すことを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 構内に見られる色にはどのようなものがあるのか探しておく 【事後学習】 実践を通して得た気づきと学びをまとめる</p> <p>第11回 風と動きと色による表現活動 スズランテープなどを中庭に張り巡らし、風によってはためく音と、テープのたなびく色彩を楽しむ。張り巡らす身体活動が学生の軌跡を残し、音を生み、巨大な色と音の作品へと変化する。自然環境を取り入れながら表現活動を行う体験を通して、環境の取り入れ方について考える機会を与える。</p> <p>【事前学習】 身体活動と連動した表現活動にはどのようなものがあるのか調べておく 【事後学習】 実践を通して得た気づきと学びをまとめる</p> <p>第12回 音と色による表現活動 聴覚を視覚へと変換する作業を行う。感覚を変換し、表現することの楽しさを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 音と連動した表現活動にはどのようなものがあるのか調べておく 【事後学習】 実践を通して得た気づきと学びをまとめる</p> <p>第13回 造形活動—指導案立案 造形活動をするにあたり、対象年齢を何歳児にするのか、何名にするのか、何月の活動にするのかを決める。それにあった活動内容を提案する。クラスで活動内容をもとに指導案を立案する。</p> <p>【事前学習】 対象年齢に応じた造形活動にはどのようなものがあるのか調べておく 【事後学習】 授業内容をふまえ、指導案をまとめる</p> <p>第14回 造形活動—模擬授業 実際に立てた指導案に基づき、保育士役と子ども役にわかれて模擬授業を行う。時間が来たら保育士役と子ども役を入れ替える。どういった声掛けや導き方ができるのか、活動時にあると便利な道具などについても考えてみる。</p> <p>【事前学習】 指導案をシュミレーションして、足りない材料などがいないか確認する 【事後学習】 模擬授業を通して出てきた修正点を確認しておく</p> <p>第15回 模擬授業の振り返りとまとめ—表現と素材について— 模擬授業を映像や画像を通して振り返り、気づいたことなどを発表し、意見交換を行う。安全面などで気を付けることがあったか、あれば便利だと感じた道具や、面白い展開ができたことなどについて意見を述べる。また、子どもへの声掛けは適切だったかについて発表する。</p> <p>【事前学習】 安全面や声掛けについて気づいたことをまとめておく 【事後学習】 振り返りをふまえ指導案の修正を行い提出する</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 指導案の作成、模擬授業、振り返りでグループワークを行う。 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【○】 カメラやタブレット等で記録を取り、情報を共有し、振り返りに役立てる。 4) 初年次教育 【 】</p>
テキスト	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p>
参考書	<p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> <p>福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアート—プロジェクトアプローチの実践から—』（小学館, 2015）、槇英子『保育をひらく造形表現』（萌文書林, 2011）、平田智久・小林紀子・砂上史子編『保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房, 2015）</p>
評価方法	<p>演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。</p> <p>演習で制作した作品・発表 60% 指導案・模擬授業 20% 小レポート 10% 授業態度 10%</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 【 】 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【 】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します</p>

オフィスアワー	佐久本：火曜日2限・金曜日3限 佐久本研究室 荻谷：講義終了後に質問を受け付けます。
課題に対する フィードバック方法	演習に関しては、課題完成後の鑑賞の時間を用い、フィードバックを行う。 指導案や小レポートなどの提出物に関しては、採点后学生のメールボックスへ返却する。

講義科目名称： 図画工作Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Art and Craft Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
佐久本 邦華			
授業形態：演習	ナンバリング：EET3232222		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p><b>【テーマ】</b> 主にグループでの共同製作活動を体験することで、子どもの特性の一つである「みたて」や「ごっこ」のイメージ的な側面への理解を深める。また、子どもの遊びを豊かにし、子どもたちの感性やイメージを刺激し、彼らの体験と経験を表現へと繋げるような造形表現活動の展開について考える。さらに、沖縄の幼児教育における製作環境についても考える。</p> <p><b>【到達目標】</b> ごっこ遊びや見立て遊びなど、身体表現、音楽表現、言語表現なども重なった総合的な「表現」に展開するために必要な、造形表現からのアプローチに関する知識や技術を習得することができる。</p>
授業の概要	<p>図画工作Ⅰの基礎的な活動をふまえ、図画工作Ⅱでは、子どもたちの「みたて活動」や「ごっこ遊び」を活発にするような共同製作について考え、取り組む。主にグループワークに取り組むことで、共同製作時の声掛けや環境設定における留意点についても考えてみる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明－図画工作Ⅱの目的と内容について－ 画像資料や映像資料を使い、図画工作Ⅱの内容と目的について解説を行う。また、簡単なグループ創作活動を行い、コミュニケーションと表現とのかかわりについて理解を深める。</p> <p><b>【事前学習】</b> 講義シラバスを読んでおく <b>【事後学習】</b> 講義を通しての気づきと感想をまとめる</p> <p>第2回 版による造形表現(1)－素材の収集とその造形性：教材の意味と導入の工夫 反復模様を生成する楽しさや面白さなど、版についての基礎について学ぶ。また廃材を用い、普段目にしていない形と、版として現れる形との違いに対する新鮮な驚きを体験する。どういった素材が面白い形を生み出すのか、材料研究を行う。</p> <p><b>【事前学習】</b> なるべく多くの素材の廃材を収集しておく <b>【事後学習】</b> 実践を通しての気づきと感想をまとめる</p> <p>第3回 版による造形表現(2)－素材の収集とその造形性－：広がりのある展開とは？ 前回行った材料研究をもとに、それぞれに切り抜いた厚紙を台紙に雑材組み合わせ、台紙に接着し、一つの版を製作する。</p> <p><b>【事前学習】</b> 前回の授業をふまえ、引き続き素材となる廃材を収集しておく <b>【事後学習】</b> 実践を通しての気づきと感想をまとめる</p> <p>第4回 「みたて」による造形表現(3)－雑材の収集とその造形性－：振り返り それぞれの版を持ち寄り、ローラーや筆を使って版に絵の具を乗せ、一反の布に摺り上げ、一枚の大きな作品とする。表現が一つになり大きな画面となることで、作品に幅と深みがでることを体験する。</p> <p><b>【事前学習】</b> 前回までの授業で完成できなかった部分を完成させておく <b>【事後学習】</b> 実践を通しての気づきと学び、そして感想をまとめる</p> <p>第5回 「ごっこあそび」を通した造形表現(1)：教材の意味 4～5歳児からさかんになるごっこ遊びの事例を紹介し、何者かになりきることへの楽しみについて確認する。ごっこ遊びを生かした造形遊びについて例を提示し、学生のごっこ遊びに対する意見も聞いてみる。</p> <p><b>【事前学習】</b> お面製作に使えるような廃材を集めておく <b>【事後学習】</b> 講義を通しての気づきと感想をまとめる</p> <p>第6回 「ごっこあそび」を通した造形表現(2)：魅力的な導入について 「名前」「性格」「特徴」を書いたくじをひとつづつ引いてもらい、自分のキャラクターを設定する。想定外の奇抜な名前や特徴などの、様々な要素の組み合わせが作り手のイメージを刺激することを体験する。そして自分で引いたくじをもとにキャラクターをデザインする。</p> <p><b>【事前学習】</b> 引き続きお面製作に使えるような廃材を集めておく また、くじで使えるような「名前」「性格」「特徴」をリストアップしておく <b>【事後学習】</b> 講義を通しての気づきと感想をまとめる</p> <p>第7回 「ごっこあそび」を通した造形表現(3)：広がりのある展開とは？ 決定したキャラクターのお面を製作する。色や形、大きさについて、キャラクターの性格や特徴が伝わるようなお面を製作する。</p> <p><b>【事前学習】</b> 決定したキャラクターに使えるような素材を集めておく <b>【事後学習】</b> 講義を通しての気づきと感想をまとめる</p> <p>第8回 「ごっこあそび」を通した造形表現(4)：振り返り 仕上がったお面を持ちながら、キャラクターになりきって自己紹介をする。また他の学生がインタビューを行い、お面の学生はキャラクターになりきって受け答えをする。それらを動画で撮影する。最後に動画を鑑賞し、振り返りを行い、キャラクターになりきったことで自分の中にどのような変化が起こったか話してもらい、学生間で意見を共有する。</p>

第9回	<p>【事前学習】 お面が完成していない学生は完成させる 【事後学習】 実践を通しての気づきと学び、そして感想をまとめる</p> <p>コミュニケーションを通じた造形活動（1）－つながる地図について</p> <p>画像資料を基に、造形発達段階の視点から、子どもの絵地図の表現の変化について学ぶ。トポロジ的空間がユークリッド的空間へと徐々に変化する過程を確認し、4、5歳児を対象とした絵地図制作について考えてみる。次週から制作がスタートすることを踏まえ、段ボールや廃材などの素材を収集する。</p>
第10回	<p>【事前学習】 事前に配布される資料を読んでおく 【事後学習】 講義を通しての気づきと感想をまとめる</p> <p>コミュニケーションを通じた造形活動（2）－グループの世界をつくる</p> <p>4～6人規模のグループを作成し、それぞれの架空の世界を作り上げる。コミュニケーションを通じ、一つ世界観を作り上げることの楽しさを体験する。</p>
第11回	<p>【事前学習】 地図作成に必要な廃材や段ボールなどの素材を集めておく 【事後学習】 実践を通しての気づきと感想をまとめる</p> <p>コミュニケーションを通じた造形活動（3）－広がりのある製作活動にするには</p> <p>各グループで打ち出されたテーマに沿って、地図を作り上げる。</p>
第12回	<p>【事前学習】 引き続き、地図作成に必要な廃材や段ボールなどの素材を集めておく 【事後学習】 実践を通しての気づきと感想をまとめる</p> <p>コミュニケーションを通じた造形活動（4）－地図のつなぎ合わせと振り返り</p> <p>隣のグループとコミュニケーションを取りながら、地図をつなげ世界を広げていく。最終的には一つの世界となる。完成後、各グループの世界についてそれぞれ発表してもらい、鑑賞する。世界観を共有し作り上げた感想等を述べてもらい、振り返りを行う。</p>
第13回	<p>【事前学習】 地図が完成していないグループは、第12回までに地図を完成させておく 【事後学習】 実践を通しての気づきと学び、感想をまとめる</p> <p>沖縄での幼児の製作環境について考える（1）－フクギ染め</p> <p>映像や画像、資料を基に、沖縄の草木染について学ぶ。この回では沖縄で古くから染料として用いられているフクギを用いた染を行う。フクギの葉を採取し、染液を作り、絞り染める。保育所・園、こども園、幼稚園などで取り入れる際の注意事項なども確認する。</p>
第14回	<p>【事前学習】 事前に配布される資料を読んでおく 【事後学習】 実践を通しての気づきと学び、感想をまとめる</p> <p>沖縄での幼児の製作環境について考える（2）－たたき染め</p> <p>木槌で叩くことにより、記事に葉を転写する「たたき染め」について学ぶ。葉を採取し、試し布を用いて、たたき染に適した葉と適さない葉について実践を通して学ぶ。また、保育所・園、こども園、幼稚園などで取り入れる際の注意事項などを確認する。</p>
第15回	<p>【事前学習】 事前に配布される資料を読んでおく 【事後学習】 実践を通しての気づきと学び、感想をまとめる</p> <p>子どもたちの創造性を刺激する環境について考える</p> <p>楽しかったり、嬉しかったり、驚いたりといった子どもの心に湧き上がる感情があって、その感動が創作活動へと繋がるということを再確認する。そのような体験は保育士や子どもどうしのかかわり、また自然環境とのかかわりから生まれるものであり、創作活動にとって体験を生み出す環境がいかに大切なのかについて理解を深める。</p>
第16回	<p>【事前学習】 事前に配布される資料を読んでおく 【事後学習】 講義を通しての気づきと学び、感想をまとめる</p> <p>なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組【○】 指導案の作成、模擬授業、振り返りでグループワークを行う。</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目【○】</p> <p>3) ICTの活用【○】 表現活動の視覚化のためにカメラやタブレット等で記録を撮り、それらを提示することで情報を共有し、鑑賞・評価に役立てる。</p> <p>4) 初年次教育【 】</p>
テキスト	テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布
参考書	<p>福田泰雅・磯部錦司著 2015年 『保育のなかのアートプロジェクトアプローチの実践からー』 小学館、小串里子著 『みんなのアートワークショップ～子どもの造形からアートへ～』 2011年 武蔵野美術大学出版、平田智久・小林紀子・砂上史子編 『保育内容「表現」』 2015年 ミネルヴァ書房、 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p>
評価方法	<p>演習でした作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。</p> <p>演習で制作した作品・発表 60% ファイル・小レポート 30% 授業態度 10%</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p>

	<p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している  可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している  不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない  欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。  【 】2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。  【 】3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。  【 】4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します
オフィスアワー	(仮) 佐久本：毎週**曜日 **限目 佐久本研究室
課題に対するフィードバック方法	課題が終了するごとに、制作したグループワークの鑑賞を行う。その後、各学生に振り返りのレポートを提出してもらい、採点後に講義内、もしくはメールボックスにて返却する。 学期末には、講義内で配布した資料をまとめたファイルを提出してもらい、評価の一部とする。

講義科目名称： 幼児体育 I

授業コード：

英文科目名称： Gymnastics for Children I

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
山城真紀子・島袋桂			
単独授業形態：演習	ナンバリング：EET3132111		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p><b>【テーマ】</b>          ・幼児期にふさわしい運動遊びの実際を通して、子ども理解を図り、保育者の役割を学ぶ。          ・子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得するとともに、模擬保育を通して実践力を養う。</p> <p><b>【到達目標】</b>          1) 運動遊びを実践する際の環境設定、声かけの仕方等、具体的な展開方法を学び、模擬保育に活かすことが出来る。          2) 子どもの発達段階に合わせた運動遊びの種類や方法について学び、具体的な保育場面を想定した指導案の作成が出来る。          3) 自らの評価とまわりからのフィードバックを基に保育実践を振り返ることを通して、自身の取り組みを改善し続ける視点を持つことが出来る。</p>
授業の概要	<p>1) 幼児期運動指針の内容を理解し、子どもの健全な発達のために運動遊びが果たす役割について学ぶ。          2) 指導案を作成し模擬保育の方法を中心に、運動遊びの教材や環境の構成、展開の方法、導上の留意点を学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、学習計画と模擬保育の担当分担、幼児期の運動特性についての理解についてシラバスを確認しながら、授業の内容、評価方法等についてオリエンテーションを行った後、グループ分けと模擬保育の担当分担を行う。幼児期運動指針の内容を確認して、幼児期の運動特性について学ぶ。  <b>【事前学習】</b> 幼児の運動遊びの種類について調べておく。  <b>【事後学習】</b> 自分の担当する運動遊びについて調べ、どのような遊びを発表するか考えておく。</p> <p>第2回 保育者に必要な力「体力」、集団行動、運動遊びの体験          子どもの体力や遊びの現状について知り、運動遊びの効果と、運動遊びの実践において保育者に求められている資質について学ぶ。その後、具体的な運動遊びについて実際に体験してみる。  <b>【事前学習】</b> 現代の子どもたちの生活課題と、過去と比べて現代の子どもたちの体力・運動能力、遊びの実施状況がどのように変化しているか調べる。  <b>【事後学習】</b> 運動遊びが子どもに与える効果について文献等を調べてみる。</p> <p>第3回 指導案作成の方法、展開の仕方、運動遊びの体験          具体的な保育場面を想定した指導案の作成について学ぶ。その他、指導案に基づいて行う運動遊びの展開方法について、運動遊びの体験を通して学ぶ。  <b>【事前学習】</b> 幼児の運動遊びを展開する際の、指導方法のポイントについて調べておく。  <b>【事後学習】</b> 講義中に学んだ運動遊びの展開の仕方を基に、自分が担当する遊びの指導案を作成する。</p> <p>第4回 鬼ごっこ・ルール遊び (3歳以下の子ども対象)          教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。  <b>【事前学習】</b> 3歳以下の子どもたちにあった鬼ごっこ・ルール遊びの種類・展開方法について学習しておく。  <b>【事後学習】</b> 講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、発表された内容の他にどのような種類の鬼ごっこ遊びがあるか調べる。</p> <p>第5回 鬼ごっこ・ルール遊び (3歳以上の子ども対象)          教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、様々な種類の鬼ごっこについて紹介と体験を行う。  <b>【事前学習】</b> 4歳以上の子どもたちにあった鬼ごっこ・ルール遊びの種類・展開方法について学習しておく。  <b>【事後学習】</b> 講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、発表された内容の他にどのような種類の鬼ごっこ遊びがあるか調べる。</p> <p>第6回 フォークダンス          教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、フォークダンスのステップの種類について紹介する。  <b>【事前学習】</b> フォークダンスの歴史や、国内の幼児教育に取り入れられた経緯について調べる。  <b>【事後学習】</b> 講義中のダンスで用いられたステップを復習しておく。また、発表された内容の他にどのようなフォークダンスがあるか調べてみる。</p> <p>第7回 体操遊び、力比べ遊び          教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、体操遊びと力比べ遊びのバリエーションについて紹介する。  <b>【事前学習】</b> 小学校等で行われている体操が、幼児の遊びとしてどのように取り入れられているか調べる。  <b>【事後学習】</b> 講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、発表された内容の他にどのような種類の体操遊びや力比べ遊びがあるか調べてみる。</p>

第8回	<p>身近な素材で運動遊び</p> <p>ペットボトルや新聞、ビニール袋等の身近にある素材を使った運動遊びの模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、身近な素材を使った運動遊びの事例について体験しながら紹介を行う。</p> <p>【事前学習】身近な素材で、幼児の運動遊びで使うことのできる遊具の一つを作成しておく。</p> <p>【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、自分で作った遊具を使ってできる遊びのバリエーションを考える。</p>
第9回	<p>からだの使い方（動作体験）</p> <p>動作法の体験から、こころとからだの関係について学ぶ。具体的には、日常の活動の中で起こってくるこころの緊張とからだの緊張について理解を深め、からだの使い方を変えることで対処していく方法について紹介する。</p> <p>【事前学習】現代の乳幼児のからだ（動作、姿勢）について、どのような特徴が示唆されているかについて調べておく。</p> <p>【事後学習】講義中に学んだ技法を、家族や友人に実践すること。</p>
第10回	<p>ストーリーゲーム</p> <p>絵本等の物語の世界と運動を結びつけて行う運動遊びの模擬保育実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、子どもの想像力・表現力を活かした運動遊びの実践について紹介する。</p> <p>【事前学習】ストーリーゲームに展開出来そうな絵本を1冊探しておく。</p> <p>【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、自分で選んだ絵本で出来る遊びのバリエーションを考える。</p>
第11回	<p>ボール遊び</p> <p>教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。その他、新しい子ども向けのボール遊びの紹介を行う。</p> <p>【事前学習】ボールを使った遊びを1つ選び、その遊びにはどのような動きが含まれてくるか分析しておく。</p> <p>【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、発表された内容の他にどのような種類のボール遊びがあるか調べてみる。</p>
第12回	<p>かけっこ遊び、とびっこ遊び</p> <p>教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。かけっこ遊びととびっこ遊びのバリエーションについて紹介する。</p> <p>【事前学習】走る、跳ぶ、という動きを引き出す運動遊びとしてどのようなものがあるか調べておく。</p> <p>【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、発表された内容の他にどのような種類のかけっこ遊び、とびっこ遊びがあるか調べてみる。</p>
第13回	<p>なわ遊び（大なわ、短なわ）</p> <p>教材の特性について理解を深め、模擬保育の実践と評価を行う。実践内容と指導案について、発表者による振り返りを行い、全員でフィードバックを行う。なわ跳びだけでなく、なわを工夫して使うことによる遊びを紹介する。</p> <p>【事前学習】縄跳びにつなげるために、縄を使ってどのような遊びが展開されているか調べる。</p> <p>【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、発表された内容の他にどのようななわ遊びがあるか調べてみる。</p>
第14回	<p>大型遊具遊び（遊具の特性と遊び方について）</p> <p>マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台等を使った遊びの体験を行う。それぞれの遊具を使った技についても紹介を行う。また、それぞれの遊びが子どもの心身の発達に果たす役割について知る。</p> <p>【事前学習】器械体操につなげるために、大型遊具を使ってどのような遊びが展開されているか調べる。</p> <p>【事後学習】大型遊具の特性を踏まえて、他の遊具と組み合わせるとどのような遊びが展開できるか考える。</p>
第15回	<p>大型遊具遊び（指導方法と安全な援助の方法について）</p> <p>マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台等を使った遊びの体験とその指導法について学ぶ。安全な環境の設定、援助の方法の他、子どもへの声かけの仕方、活動の評価について学ぶ。</p> <p>【事前学習】大型遊具の段階的な指導方法や、安全な援助の方法について調べる。</p> <p>【事後学習】講義中に学んだ指導方法や援助の方法を自分なりに整理しておく。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	特に指定しない 随時資料を配布。
参考書	<p>幼児期運動指針策定委員会 2013年 『幼児期運動指針ガイドブック』 文部科学省  内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーバル館  内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーバル館  厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーバル館  厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーバル館</p>
評価方法	授業への参加度（30%）、課題発表（50%）、レポート（20%）などを総合して行う。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — ：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>【 】2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【 】4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。 服装は、運動の出来る服装で授業にのぞむこと。
オフィスアワー	山城：毎週 月曜日 4限目 山城研究室 島袋：授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬保育の実践については、評価して講義内でそのフィードバックを行う。</li> <li>・指導案とレポートは、評価して返却する。</li> </ul>

講義科目名称： 幼児体育Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： Gymnastics for Children Ⅱ

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	1単位(0-2)	選択科目
担当教員			
山城真紀子・島袋桂			
授業形態：演習	ナンバリング：EET3232212		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <p>1) 保育者としての基本的運動技能の習得を目指しつつ、遊具の特性における補助法や安全、そして戸外で積極的に遊ぶ意義や方法を理解する。</p> <p>2) 心や体で感じたことを自分の感情の趣くままに体で動いて表現を行う子どもたちの身体表現についての指導の内容や方法について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1) マット、跳び箱、鉄棒の基礎課題研究について、課題を達成するための努力が出来るとともに、安全な補助が出来るようになる。</p> <p>2) 様々な運動遊びを通して、子どもの遊びに対する欲求を理解し、子どもとともにからだを動かして楽しめる保育者としての視点を持つことが出来る。</p> <p>3) 伝承遊びや伝統芸能の体験を通して、郷土の文化を理解し、子どもたちに郷土の良さを伝えることが出来る。</p> <p>4) 保育者としての表現力を磨き、身体表現による作品づくりを創作することが出来る。</p> <p>5) グループの活動において、仲間と協力・協働してそれぞれの活動に取り組むことが出来るようになる。</p>
授業の概要	<p>1) 大型移動遊具の基礎技能の習得や、環境設定、安全な補助法について学ぶとともに、それぞれの課題について評価方法を学ぶ。</p> <p>2) 仲間と協力しながら、戸外の環境を活用する運動遊びについて実際に企画し、展開する方法を学ぶ。</p> <p>3) いろいろな動きの体験、歌やリズムにのって動いたり、作品のまとめ方など基礎的な知識や技能を習得する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、グループ編成、実習を通しての幼児の運動と環境についての振り返りシラバスを確認しながら、授業内容、授業計画、評価方法等についてのオリエンテーションを行う。その後、グループの編成と担当分担を行う。その他、実習の振り返りを行う。 【事前学習】 幼児の運動遊びの種類について調べておく。 【事後学習】 自分の担当する運動遊びについて調べる。</p> <p>第2回 課題研究①・あやとり遊び 基礎課題研究として、マット（前転・後転・側転）、鉄棒（前方支持回転、逆上がり）、跳び箱（開脚とび）の課題の紹介と練習を行う。用具の安全な使用の仕方、準備・片付けについても学習する。その他、あやとり遊びの紹介をする。 【事前学習】 基礎課題研究として行われている運動が、現場でどのように実践されているか文献等で調べる。 【事後学習】 技術指導のポジティブな側面とネガティブな側面について考えをまとめる</p> <p>第3回 課題研究②・なわ遊び マット（前転・後転・側転）、鉄棒（前方支持回転、逆上がり）、跳び箱（開脚とび）の練習を行う。練習を通して、安全な援助の仕方について学ぶ他、情報機器を活用した課題の分析方法とそのフィードバックの方法についても紹介する。その他、なわ遊びについての紹介も行う。 【事前学習】 段階的な指導方法や、安全な援助の方法について調べる。 【事後学習】 講義中に学んだ指導方法や援助の方法を自分なりに整理しておく。</p> <p>第4回 課題研究③お手玉遊び・鉄棒、マット、跳び箱のテスト 基礎課題研究のマット（前転・後転・側転）、鉄棒（前方支持回転、逆上がり）、跳び箱（開脚とび）の試験を行う。また、それぞれの活動についてその評価の視点と方法について学ぶ。 【事前学習】 基礎課題研究の種目の練習を行う。 【事後学習】 幼児の発達を踏まえたくうえで、基礎課題研究で行った種目をどのように展開したらよいか自分なりに整理する。</p> <p>第5回 歩け歩け園外保育の企画と展開 担当者は園外保育（お散歩）について事前に企画し、授業当時にその展開を行う。園外での活動が子どもの運動にとってどのような効果をもたらしているかについて学ぶ他、安全教育の視点についても学習する。保育実践は、全員で評価とフィードバックを行う。 【事前学習】 現代の幼児の活動量がどのようになっているかを調べる。また、お散歩には運動以外にもどのような効果が期待できるのかについても事前学習をしておく。 【事後学習】 講義の中の体験から、お散歩の際の注意や企画の立て方について各自で整理しておく。</p> <p>第6回 公園でミニ運動会の企画と展開 担当者は園外保育（公園）について事前に企画し、授業当時にその展開を行う。公園にある遊具や自然を生かした運動遊びの展開方法について学ぶ他、環境保全の活動についても学習する。保育実践は、全員で評価とフィードバックを行う。 【事前学習】 公園の遊具を使った遊びと、自然の中にあるものを使った遊びについて調べておく。 【事後学習】 講義の中の体験から、公園で遊ぶ際の注意や企画の立て方について各自で整理する。</p> <p>第7回 わらべ歌で遊ぼう トランポリン（1） 様々な種類のわらべ歌遊びの体験を行う。一般的なわらべ歌遊びの他、沖縄のわらべ歌遊びについても体験し、郷土の文化とその背景を理解する。トランポリンの基本的な跳び方と安全管理について学習する。 【事前学習】 わらべ歌遊びにどのようなものがあるか調べる。</p>

第8回	<p>【事後学習】講義中に紹介された遊びや、験した遊び以外にどのようなわらべ歌遊びがあるか調べる。また、沖縄のわらべうた遊びにどのようなものがあるかについても探してみる。</p> <p>伝承遊びで遊ぼう トランポリン (2)</p> <p>伝承遊びのビデオを視聴し、その後実際に伝承遊びの体験を行う。伝承遊びのルーツや魅力について理解し、現場で実践する力をつける。トランポリンでは、数種類の技を紹介し、挑戦してみる。</p>
第9回	<p>【事前学習】伝承遊びにどのようなものがあるか調べる。</p> <p>【事後学習】講義中に紹介された遊びや、体験した遊び以外にどのような伝承遊びがあるか調べる。また、沖縄の伝承遊びにどのようなものがあるかについても探してみる。</p> <p>身体表現で遊ぼう (1) ・「幼児の身体表現 (0歳から6歳まで)」 (ビデオ鑑賞)</p> <p>「幼児の身体表現」のビデオを視聴し、子どもの自由な身体表現を引き出す方法や声かけの仕方について学ぶ。最後にその内容についてレポートを作成する。</p> <p>【事前学習】からだを使って表現する遊びについて調べてみる。</p> <p>【事後学習】ビデオで紹介された表現遊びの展開の仕方、指導方法のポイントについて各自で整理しておく。また、他にもどのような遊び方があるか調べる。</p>
第10回	<p>身体表現で遊ぼう (2)</p> <p>「表現力」について理解し、保育者に必要な表現力について学ぶ。具体的な身体表現遊びの体験を行いながら、子どもの表現力を引き出す方法を学ぶ。</p> <p>【事前学習】ダンスやリトミック等と、表現遊びの違いについて考えてくる。</p> <p>【事後学習】講義中に体験した表現遊びについて、展開の方法や指導のポイントを各自で整理しておくこと。</p>
第11回	<p>沖縄のリズムと動きで遊ぼう</p> <p>外部講師を招き、琉球舞踊やカチャーシー、楽器の体験を行う。体験を通して、沖縄の文化について理解し、伝統芸能の魅力を子どもたちに伝える力をつける。</p> <p>【事前学習】沖縄の伝統芸能が、保育や幼児教育の中でどのように取り入れられているか調べる。</p> <p>【事後学習】地域の伝統文化を継承していく意義、そしてその方法について考える。</p>
第12回	<p>作品づくり (1) と発表</p> <p>テーマ (課題曲) に沿って、各グループで身体表現の創作を行う。グループでの協働の仕方や創作プロセスについて学ぶ。授業時間内に作品を完成させ、発表を行う。</p> <p>【事前学習】子どものからだを使った創作活動の内容や手順について調べてくる。</p> <p>【事後学習】それぞれの発表の良さについて確認するとともに、子どもと一緒に創作する方法についても考える。</p>
第13回	<p>作品づくり (2) と発表</p> <p>沖縄の曲に合わせて各グループで身体表現の創作を行う。沖縄の伝統芸能で用いられる楽器や道具も使いながら、作品を創作する授業時間内に作品を完成させ、発表を行う。</p> <p>【事前学習】沖縄の楽器や音楽を使った創作活動について調べてくる。</p> <p>【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。また、発表された内容の他にどのようななわ遊びがあるか調べてみる。</p>
第14回	<p>作品づくり (3-1) 、創作</p> <p>各グループで身体表現による創作の企画・演出を練り、その練習を行う。作品は15分以内とし、翌週 (15回) に発表を行う。</p> <p>【事前学習】各グループでどのような創作をするのか、そして必要な道具等について話し合っておく。</p> <p>【事後学習】各グループで講義のプロセスを振り返り、次週に向けて必要なことについて話し合いを行う。</p>
第15回	<p>作品づくり (3-2) と発表・まとめ</p> <p>各グループで最終作品の発表を行う。それぞれの作品発表に対して評価し、フィードバックを行う。最後に講義のまとめを行う。</p> <p>【事前学習】発表に向けての練習、準備を行う。</p> <p>【事後学習】各グループの良さを確認するとともに、各グループの創作のプロセスを振り返って省察を行う。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	特に指定しない 随時資料を配布。
参考書	<p>幼児期運動指針策定委員会 2013年 『幼児期運動指針ガイドブック』 文部科学省</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p>
評価方法	授業態度50% 受講者の発表30% 小テスト・授業内レポート20%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>【 】2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【 】4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士 (保育) の学位を授与する。</p>

履修上の注意	安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。 運動出来る服装で授業にのぞむこと。
オフィスアワー	山城：毎週**曜日 **限目 山城研究室 島袋：授業終了後に質問を受付けます。
課題に対する フィードバック方法	・テストやレポート等は、評価した後、各自に返却する。

講義科目名称： 保育内容総論

授業コード：

英文科目名称： Introduction to Childcare Service

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年次	2単位 (0-2)	選択科目
担当教員			
赤嶺 優子・糸洲 理子・松田 恵子			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3231111		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	(1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を踏まえ、保育の基本や指導の考え方を理解する。 (2) 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、乳幼児教育施設での具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
授業の概要	幼児教育の基本を踏まえ、保育の基本や指導の考え方を理解する。また、幼児教育は、環境を通して総合的に指導をすることを理解し、環境を構成し実践するために必要な知識を身に付ける。特に、担当教員の実務経験から、具体的な乳幼児の姿や生活、遊びの中でどのような経験をしているか学び、乳幼児の発達と5領域のねらい及び内容とのつながりを把握する。さらに、環境を通して総合的に指導をすることを理解する。乳幼児教育施設での勤務経験を有する担当教員が、その経験を活かし、幼稚園教育要領および保育所保育指針等に示されている幼児教育の基本と発達の学びの過程等を理解できるよう、事例を紹介し、教材等の活用について解説する。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、教育・保育の全体構造の理解 教育・保育の全体構造の理解について 【事前学習】 教育・保育について、テキストや他の文献等から理解したことを調べ、まとめてくること。 【事後学習】 教育・保育の全体構造について、まとめる。</p> <p>第2回 子どもの生活と保育内容：子どもの生活と遊びの理解、養護と教育、5領域のねらい及び内容 養護と教育、5領域のねらい及び内容について 【事前学習】 養護と教育、養護と教育の一体について調べ、まとめてくること。 【事後学習】 子どもの生活と5領域のねらい及び内容について、まとめる。</p> <p>第3回 保育内容の歴史の変遷 保育内容の変遷と現代の保育内容について 【事前学習】 テキスト第3章を読み、保育内容の変遷と幼児教育のガイドラインについて調べ、まとめること。 【事後学習】 幼児教育のガイドラインにおける現代の保育内容について、まとめる。</p> <p>第4回 3歳未満児の発達と子ども理解 3歳未満児の発達と育ちについて 【事前学習】 テキスト第6章から、0・1・2歳児の育ちについて調べ、まとめてくること。 【事後学習】 3歳未満児の育ちと保育内容について、まとめる。</p> <p>第5回 3歳以上児の発達と子ども理解 3歳以上児の育ちと生活について 【事前学習】 テキスト第5章や幼児教育のガイドラン等から3歳以上児の発達と生活を調べ、まとめてくること。 【事後学習】 3歳以上児の育ちと生活について、まとめる。</p> <p>第6回 幼児教育における環境を通した保育（視聴覚教材の活用） 幼児教育における環境を通した教育・保育の意義について 【事前学習】 テキストや幼児教育のガイドライン等から幼児教育における環境を通して行う教育・保育について調べ、まとめておくこと。 【事後学習】 DVD視聴を通して見えた、幼児教育における環境を通した教育・保育について、まとめる。</p> <p>第7回 幼児教育における5領域のねらい及び内容のつながり：遊びを通しての総合的な指導 幼児教育における5領域のねらい及び内容について 【事前学習】 テキスト第2章や幼児教育のガイドライン等から、遊びと総合的な指導について調べ、まとめておくこと。 【事後学習】 幼児教育における5領域のねらい及び内容のつながりについて、まとめる。</p>

第8回	支援を要する子どもの理解とクラス運営 支援を要する子どもの理解とクラス運営について 【事前学習】 文献や幼児教育のガイドライン等から、支援を要する子どもの指導について調べ、まとめること。 【事後学習】 支援を要する子どもの理解とクラス運営について、まとめる。
第9回	幼児教育における見方・考え方：幼児期の教育と児童期の教育 幼児期の教育と児童期の教育について 【事前学習】 テキスト第1章や幼児教育のガイドライン等から、幼児期の教育と児童期の教育について、現状・問題点・課題・接続の方法について調べ、まとめること。 【事後学習】 幼児教育における見方・考え方と児童期への接続の視点（資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿）について、まとめる。
第10回	幼児教育における教育課程、保育の全体的な計画・指導計画について 教育課程、保育の全体的な計画・指導計画について 【事前学習】 テキスト第5章や幼児教育のガイドライン等から幼児教育におけるカリキュラムについて調べ、まとめること。 【事後学習】 教育課程・保育の全体的な計画・指導計画について、まとめる。
第11回	保育内容と計画のつながり（部分案作成） グループでの部分指導案作成について 【事前学習】 保育内容（活動名・対象年齢・ねらいや内容・環境構成・活動の流れ・保育者の援助/配慮・他）を踏まえて、部分案の提案資料を作成すること。 【事後学習】 グループで保育内容（活動名・対象年齢・ねらいや内容・環境構成・活動の流れ・保育者の援助/配慮・他）を踏まえて、部分指導案を作成する。
第12回	模擬保育案の作成 模擬保育案を作成について 【事前学習】 グループで、模擬保育案の内容を検討しておくこと。 【事後学習】 グループで保育内容（活動名・対象年齢・ねらいや内容・環境構成・活動の流れ・保育者の援助/配慮・他）を踏まえて、部分指導案を作成する。
第13回	模擬保育 模擬保育について 【事前学習】 模擬保育内容を検討し、グループで役割を決めシュミレーションをしておくこと。 【事後学習】 自己の指導案を作成し、模擬保育を保育内容（ねらいや内容・環境構成・活動の流れ・保育者の援助/配慮・他）を踏まえて、振り返りまとめる。
第14回	模擬保育の振り返りと省察 模擬保育の振り返りと省察について 【事前学習】 テキストや幼児教育のガイドライン等から、PDCAサイクルについて調べ、まとめること。 【事後学習】 模擬保育を振り返りと省察について、まとめる。
第15回	各領域の特性に応じた保育実践の動向と構想 各領域の特性に応じた保育実践の動向について 【事前学習】 各領域の特性と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について調べ、まとめること。 【事後学習】 領域の特性に応じた保育実践の動向と構想について、まとめる。
第16回	
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/>
テキスト	シードブック 改訂保育内容総論（入江礼子・榎沢良彦編著）建帛社 幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）フレーベル館 幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）フレーベル館
参考書	幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）フレーベル館 保育所保育指針解説（平成30年2月 厚生労働省）フレーベル館
評価方法	指導案作成 個人・模擬保育（20%）、模擬保育（20%）、レポート（60%）

評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 【○】 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	事前学習を踏まえて講義に参加すること
オフィスアワー	<p>赤嶺：月曜日の昼休み 赤嶺研究室 糸洲：月曜日の3限目 糸洲研究室 松田：講義終了後 終了後の教室</p>
課題に対するフィードバック方法	講義内でその都度返却する。

講義科目名称： 健康指導法

授業コード：

英文科目名称： Health Education Methodology

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
山城 眞紀子			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3231215		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な活動場面を想定した指導の在り方を身に付ける。
授業の概要	1. 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を学ぶ。 2. 乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発達に対する理解を深め、適切な指導方法について学ぶ。 3. 現代の子どもの課題である「基本的生活習慣」、「食育」、「運動遊び」について家庭や地域との連携のあり方について知る。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、子どもの「健康」とは 一領域「健康」のねらい及び内容の理解— シラバスを確認しながら、講義の概要、講義の進め方、評価方法等についてのオリエンテーションを行う。その後、「幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて学習する。</p> <p>【事前学習】幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容について教科書を読んでおく。 【事後学習】幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」の内容の取扱いについて教科書で確認する。</p> <p>第2回 子どもの健康の現状と課題 現代の子どもの健康課題について学び、その改善のための保育者に求められる内容や保育者の資質について学ぶ。</p> <p>【事前学習】現代の子どもの健康課題としてどのようなものがあげられているか調べる。 【事後学習】現代の子どもの健康課題と関連する要因について調べる。</p> <p>第3回 子どもの心身の発達と特徴 子どもの心身の発達とその特徴について学び、子どもの健全な発達のために必要な保育者の働きかけについてグループワークも用いながら考えていく。</p> <p>【事前学習】乳幼児期の心身の発達の特徴について調べる。 【事後学習】乳児期と幼児期の心身の発達の違いについて、整理しておく。</p> <p>第4回 子どもの基本的生活習慣獲得過程（指導案作成） 子どもの生活習慣が健康に及ぼす影響について知る。次に、基本的生活習慣獲得のプロセスについて確認し、模擬保育に向けて指導案の作成を行う。</p> <p>【事前学習】保育の現場で行われる子どもの生活習慣の指導には、どのようなものがあるか調べる。 【事後学習】各グループでテーマを決めて、模擬保育の準備と指導案の作成を行う</p> <p>第5回 基本的生活習慣に関わる保育の実践（模擬保育実践と評価） 基本的生活習慣の獲得について模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら基本的生活習慣獲得の指導方法等についてまとめを行う。</p> <p>【事前学習】各グループで模擬保育に向けての準備と練習を行う。 【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。</p> <p>第6回 食育の推進 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における食育の内容について学ぶ。その後、事例も持ちながら食育の内容、指導方法について理解し、具体的な食育の実践について構想を練る。</p> <p>【事前学習】保育の現場で行われている食育にどのようなものがあるか調べる。 【事後学習】各グループでテーマを決めて、模擬保育の準備と指導案の作成を行う。</p> <p>第7回 食育実践と体験（模擬保育実践と評価） 現在行われている幼児向けの食育の実践を、模擬保育を通して行う。その後、各グループで評価を行い、その内容を元に食育推進についてのまとめを行う。</p> <p>【事前学習】各グループで模擬保育に向けての準備と練習を行う。 【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。</p> <p>第8回 運動遊びの意義（情報機器の活用） 情報機器も用いながら、子どもの動作の特徴を観察し、なぜ子どもの発達に運動遊びが必要なのかについて理解する。その他、運動遊びの考え方、方法についても学習する。</p>

第9回	<p>【事前学習】運動遊びが子どもにもたらす効果について調べる。 【事後学習】なぜ幼児期には、運動指導ではなくて「運動遊び」が必要とされているのか各自で調べ、整理しておく。</p> <p>運動遊びの展開方法（指導案作成） 運動遊びの展開について、グループワークも用いながら学んでいく。その後、具体的な保育場を想定しながら、運動遊びの指導案を作成する。</p>
第10回	<p>【事前学習】運動遊びを一つ選び、発達の違いによりその遊びがそれぞれどのように展開されているか調べる。 【事後学習】各グループでテーマを決めて、模擬保育の準備と指導案の作成を行う。</p> <p>運動遊びの指導実践（模擬保育実践と評価） 運動遊びについて指導案を基に模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら運動遊びの指導方法等についてまとめを行う。</p>
第11回	<p>【事前学習】各グループで模擬保育に向けての準備と練習を行う。 【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。</p> <p>子どもの病気や怪我、事故の予防と応急処置について 子どもが罹患する病気や、よくある怪我について知る。その他、事故の予防と応急処置の際の注意について学ぶ。</p>
第12回	<p>【事前学習】過去と比べて、現代の子どもの病気や怪我の状況がどのように変化しているかについて調べる。 【事後学習】それぞれの応急処置について復習し、練習を行う。</p> <p>子どもの安全教育と危険防止（指導案作成） 現場を想定した事故の対応等についてグループワークを用いて考える。その後、安全教育についての指導案作成を行う。</p>
第13回	<p>【事前学習】保育の現場では、どのような安全教育が行われているか調べる。 【事後学習】各グループでテーマを決めて、模擬保育の準備と指導案の作成を行う。</p> <p>安全教育の指導実践（模擬保育実践と評価） 安全教育について指導案を基に模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら安全教育の指導方法等についてまとめを行う。</p>
第14回	<p>【事前学習】各グループで模擬保育に向けての準備と練習を行う。 【事後学習】講義中の発表について、展開の方法や指導のポイントについて各自で整理しておくこと。</p> <p>健康保育の実践と評価の視点 子どもの健康を守るために、乳幼児の内面や、背景を理解することの重要性について学ぶ。また、日々の保育実践について、自身による評価や周囲からのフィードバックを活用して、日々改善につとめる視点をもつことの必要性を理解する。</p>
第15回	<p>【事前学習】保育実践の中で行われるPDCAがどのようなプロセスで行われているか調べる。 【事後学習】実践を評価する方法とその意義について、各自で整理しておく。</p> <p>保幼小のつながりと地域との連携について 保育所・幼稚園と小学校をつなぐことの意義とその具体的な内容について正しく理解し、グループワークを用いて、将来を想定した保育構想について考える。</p>
第16回	<p>【事前学習】保幼小の連携として、どのような実践が行われているか調べる。 【事後学習】各自で、今後の保幼小の連携についてのアイデアを1つ以上あげる。</p> <p>定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	吉田伊津美・砂上史子・松寄洋子 2018年 『保育内容 健康』 光生館
参考書	<p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p>
評価方法	定期試験（60%）、受講態度（20%）、受講者発表（20%）
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>【○】2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p>

	<p>【○】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>講義だけではなく、指導案作成、模擬保育の実践も行います。</p> <p>グループの活動も取り入れながら、授業をすすめます。</p>
オフィスアワー	<p>（仮）毎週 月曜日 4限目 山城研究室</p>
課題に対する フィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題、試験等は、評価して各自に返却します。</li> </ul>

講義科目名称： 人間関係指導法

授業コード：

英文科目名称： Teach. Meth. of Hu. Rel. of Children

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期・後期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
赤嶺優子・平安名盛考			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3231212		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針で示されている幼児教育・保育の基本を踏まえて、領域「人間関係」の特徴と目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。                  (2) 乳幼児期の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる乳幼児教育施設での具体的な指導を想定した保育を構想する方法を身に付ける。</p>		
授業の概要	<p>幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。そのうえで、乳幼児の姿と保育実践を関連させて理解を深め、発達に必要な主体的・対話的で深い学びを実現するための実践方法を身に付ける。                  また、幼稚園、小学校等学校現場において教員経験のある担当教員が、その経験を活かし、幼稚園教育要領および保育所保育指針等に示された内容について、具体的な例を紹介し、教材の活用および指導法等について解説する。</p>		
授業計画	第1回	<p>講義概要説明・現代社会と乳幼児の人間関係                  講義概要説明、評価方法、授業の進め方について                  昔の乳幼児の生育環境と現代社会の乳幼児の生育環境と人間関係                  【事前学習】                  自己の生育環境について、身近な家族から聞き、まとめておくこと。                  【事後学習】                  今と昔の生育環境および社会情勢について理解したことをまとめる。</p>	
	第2回	<p>領域「人間関係」の目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて                  幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が示す領域「人間関係」の目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて                  【事前学習】                  幼児教育のガイドランを通して、領域「人間関係」の特徴と目標、ねらいや内容について、調べまとめておくこと。                  【事後学習】                  領域「人間関係」の特徴と目標、ねらいや内容との関連性（繋がり）について、まとめる。</p>	
	第3回	<p>乳児期における人間関係の発達                  幼児期の発達と信頼関係から構築される人間関係の発達について                  【事前学習】                  テキスト p 42～ p 48まで読み、乳児期の発達と信頼関係について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。                  【事後学習】                  乳児期における人間関係の発達について、まとめる。</p>	
	第4回	<p>幼児期における人間関係の発達                  幼児期の生活や発達をとおした人間関係の広がりについて                  【事前学習】                  テキスト p 48～ p 57まで読み、幼児期の生活と発達、人間関係の広がりについて、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。                  【事後学習】                  幼児期における人間関係の発達について、まとめる。</p>	
	第5回	<p>乳幼児期の発達と自立心を育む援助                  乳幼児期の発達と自分のことは自分でする自立心を育む援助について                  【事前学習】                  テキスト p 90～ p 105まで読み、乳幼児期の生活と発達、自分のことは自分でする自立心を育む援助について、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。                  【事後学習】                  乳幼児期の発達と自立心を育む援助について、まとめる。</p>	
	第6回	<p>友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助の在り方（視聴覚教材の活用）                  DVD視聴をとおしてのグループ討議や意見交換について                  【事前学習】                  幼稚園教育要領解説、領域「人間関係」の〔ねらい〕の(3)と〔内容〕(6)、〔内容の取扱い〕(4)を読み、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。                  【事後学習】                  友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助の在り方について、自分で理解なりに理解したことやグループ討議内容から、理解を深めたことをまとめる。</p>	
	第7回	<p>乳幼児期の自立心の育ち                  自分のことは自分でする自立心の芽生えを育む関わりについて                  【事前学習】                  テキスト p 76～ p 90までを読み、乳幼児期の生活と発達と自立心の芽生えの育ちについて、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。                  【事後学習】                  乳幼児期の自立心の育ちについて、まとめる。</p>	
	第8回	<p>幼児期の協同性の育ち：目標を共有し協力してやり遂げようとする力の育ち                  協同性をとおしてみえる共同に向かう幼児同士の関わりと育ちについて</p>	

	<p>【事前学習】 幼稚園教育要領解説の領域「人間関係」の〔ねらい〕(2)と〔内容〕(8)、〔内容の取扱い〕(3)を読み、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。</p> <p>【事後学習】 幼児期の協同性の育ちについて、まとめる。</p> <p>第9回 決まりに関する幼児の葛藤と援助 決まりに関する幼児の葛藤と援助について</p> <p>【事前学習】 幼稚園教育要領解説、領域「人間関係」の〔ねらい〕(3)〔内容〕(11)、〔内容の取扱い〕(5)を読み、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。</p> <p>【事後学習】 決まりに関する幼児の葛藤と援助について、まとめる。</p> <p>第10回 個と集団の育ち（視聴覚教材の活用） DVD視聴をとおして捉える個と集団の育ち「共通の遊具や用具を大切に、みんなで使う」</p> <p>【事前学習】 幼稚園教育要領解説、領域「人間関係」の〔ねらい〕(3)と〔内容〕(12)、〔内容の取扱い〕(6)を読み、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。</p> <p>【事後学習】 個と集団の育ちについて、まとめる。</p> <p>第11回 共同的な遊びの中で育ちあう人との関わり（指導案作成） 指導案作成について</p> <p>【事前指導】 各自で「共同的な遊びの中で育ちあう人との関わり」に関する事例内容（活動名・共同的な遊び・育ちあう場面・他）を考え、まとめておくこと。</p> <p>【事後指導】 グループで、事例内容（活動名・共同的な遊び・育ちあう場面・他）を検討し、幼児教育における資質・能力と10の姿、領域「人間関係」のねらいと〔内容〕(4)(7)(8)〔内容の取扱い〕(3)を踏まえ、指導案を作成する。</p> <p>第12回 共同的な遊びの中で育ちあう人との関わり（模擬保育） グループで共同的な遊びに関する事例内容を考え、模擬保育の準備</p> <p>【事前学習】 グループで模擬保育について準備し、ポイントをまとめておくこと。</p> <p>【事後学習】 共同的な遊びの中で育ちあう人との関わりについて、まとめる。</p> <p>第13回 交流保育の中で育つ人との関わり 交流保育の中で育つ人との関わりについて</p> <p>【事前学習】 文献などを通して、交流保育について調べ、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。</p> <p>【事後学習】 交流保育の中で育つ人との関わりについて、まとめる。</p> <p>第14回 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた保幼小の接続 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校以降の生活や学習で生かされる力について</p> <p>【事前学習】 幼児教育のガイドランから、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について調べて整理し、理解したことや理解できなかったことをまとめておくこと。</p> <p>【事後学習】 幼児教育から小学校教育への接続を意識した視点について、まとめる。</p> <p>第15回 領域「人間関係」をめぐる諸問題とまとめ 現代社会から見える、人間関係に関する諸問題について</p> <p>【事前学習】 テキストp144～p166までを読み、現代社会から見える「人間関係」に関する諸問題について、考えてくること。</p> <p>【事後学習】 「人間関係」に関する諸問題から見える幼児教育の在り方について、まとめる。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	清水陽子/門田理世/牧野桂一/松井尚子 [編著] 2017年『保育の理論と実践』ミネルヴァ書房
参考書	<p>文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館</p> <p>内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館</p>
評価方法	試験60%、課題40%で総合的に評価する。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>【○】2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p>

	<p>【○】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	領域「人間関係のねらい、内容、内容の取扱い」他の課題を課す。
オフィスアワー	赤嶺：毎週月曜日、（昼休み）研究室 平安名：授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対する フィードバック方法	予習・復習（領域「人間関係のねらい、内容、内容の取扱い」・他）の課題を課す。 課題は、評価し授業内に返却します。

講義科目名称： 環境指導法

授業コード：

英文科目名称： Nat. and So. Env. Edu. Meth.

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	選択必修科目
担当教員			
照屋 建太			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3231213		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 身近な環境を利用し、乳幼児の発達、経験を通じた学びの過程を踏まえた場面を想定した指導方法を身につけることを目標とする。さらに、乳幼児期の発達や経験を通じた学びの過程を理解し、具体的な場面を想定した保育を構想する方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容の全体構造を理解することができる。</p>
授業の概要	<p>本講義では、領域「環境」を中心にその意義・内容について理解する。また、周囲の様々な環境に関わり、環境構成する力を養う。物の性質や数量、文字の取り扱いについて学ぶ。さらに、乳幼児の発達を踏まえた上で、環境について意図的に考え、計画する方法を自ら考える。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、乳幼児の保育環境や生活環境を考える 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における5領域の概要説明。そして、乳幼児の保育環境や生活環境の実態を考える。 【事前学習】保育における環境とはどのようなことか、考えておくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。</p> <p>第2回 グループ学習①（環境観察、教材研究） 学生自ら環境を観察し、乳幼児にとって魅力的な環境についてグループで考え、発表する。 【事前学習】環境とは何を指しているか、考えておくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。出される復習問題を行うこと。</p> <p>第3回 領域「環境」の意義と概要、領域「環境」をより良く理解するために 5領域の中にある領域「環境」の意義を考える。そして、その環境について具体例を考え理解を深める。 【事前学習】テキストの第1章領域「環境」の意義、第3章領域「環境」をより良く理解するために読んでおくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。毎回出される復習問題を行うこと。</p> <p>第4回 領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」のねらいと内容についてしっかり把握する。 【事前学習】テキストの第2章領域「環境」の概要を読んでおくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。毎回出される復習問題を行うこと。</p> <p>第5回 好奇心・探究心のはぐくみ、物の性質や数量・文字の取り扱い 幼児にとって好奇心・探究心の出る環境を考える。また、身近な環境から数量や文字の取り扱い方法を把握する。 【事前学習】テキストの第7章数量や文字などへの興味を読んでおくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。毎回出される復習問題を行うこと。</p> <p>第6回 子どもの発達と環境、基本的生活習慣の自立 子どもの発達環境を考える。また、近年の乳幼児の基本的生活習慣について実態を踏まえ把握する。 【事前学習】テキストの第4章子どもの発達と環境、第5章子どもと環境との関わりを読んでおくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。毎回出される復習問題を行うこと。</p> <p>第7回 自然環境を活用した実践事例（情報機器の活用） 自然環境を利用した保育実践を視聴し、自分の考えをまとめる。 【事前学習】「里山」とは何か調べておくこと。 【事後学習】今回の講義についてレポートを提出すること。</p> <p>第8回 自然に親しむ ー生命の尊さ、自然との関わりと保育 自然に親しむことで、命の尊さについて学ぶ。また、自然との関わりから保育について考える。 【事前学習】テキストの第6章自然に親しむー生命の尊さを読んでおくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。毎回出される復習問題を行うこと。</p> <p>第9回 自然環境（ビオトープについて）を利用した保育実践（情報機器の活用） 自然環境を利用した保育実践（ビオトープ）の事例について実際に体験し、学ぶ。 【事前学習】「ビオトープ」とは何か調べておくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。毎回出される復習問題を行うこと。</p> <p>第10回 生活と関係する行事・文化、子どもを取り巻く情報機器（情報機器の活用） 生活と関係する行事や文化等を学ぶ。また、近年における保育の情報機器利用について事例を通して考える。 【事前学習】テキストの第8章生活と関係する行事・文化、第9章子どもを取り巻く情報機器を読んでおくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。毎回出される復習問題を行うこと。</p> <p>第11回 指導計画と評価 ー領域「環境」の視点から（教材の活用） これまで学んだ保育環境の学びから、教材の活用方法を自ら考える。 【事前学習】テキストの第10章指導計画と評価ー「環境」の観点からを読んでおくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。毎回出される復習問題を行うこと。</p>

	<p>第12回 グループ学習②（身近な植物の特徴を知る，教材研究） 身近な植物の特徴や生育環境，保育での利用方法についてグループで学ぶ。 【事前学習】身近な植物にはどのようなものがあるか，調べておくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。毎回出される復習問題を行うこと。</p> <p>第13回 0歳から2歳児の保育と環境，3歳から6歳児の保育と環境（模擬保育等の実践的内容） 保育環境について実践内容を考え，模擬保育を行う。 【事前学習】テキストの第11章0～2歳児の保育と環境，第12章3～6歳児の保育と環境を読んでおくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。毎回出される復習問題を行うこと。</p> <p>第14回 保幼小との連携，特別な支援を必要とする子どもと領域「環境」 近年の保幼小連携と特別な支援を要する子ども達の環境について学ぶ。 【事前学習】テキストの第13章小学校との連携，第14章特別な支援を必要とする子どもと領域「環境」を読んでおくこと。 【事後学習】今回の講義をまとめておくこと。毎回出される復習問題を行うこと。</p> <p>第15回 現代社会に内包する環境の問題，領域「環境」の振り返り 現代の保育環境に関する問題を考え，領域「環境」のまとめを行う。 【事前学習】テキストの第15章現代社会に内包する環境問題を読んでおくこと。 【事後学習】今回の講義を受け，レポート作成し提出すること。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>大沢裕・野末晃秀 2018年『コンパクト版 保育内容シリーズ「環境」』一藝社 文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 その他，必要に応じてプリントは配付する。</p>
参考書	<p>沖縄生物教育研究会編 2012年『フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版』新星出版 その他，必要に応じて紹介する。</p>
評価方法	<p>講義のまとめ課題（60%），レポート（20%），受講態度（20%）</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 【○】 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>課題の提出については、様式と期日を必ず守ること。遅れた場合は、受け取らない。 欠席した場合は、講義計画に関するテーマを自ら設定し、1200字（A4用紙）のレポートを提出すること。</p>
オフィスアワー	<p>毎週月曜日 3限目 照屋研究室（西研3-9）</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>提出された課題は、講義最終日に返却する。</p>

講義科目名称： 言葉指導法

授業コード：

英文科目名称： Teach. Meth. of Children's Sp. Dev.

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
山盛 淳子			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3232214		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児が想像する楽しさに寄り添って「言葉」の世界を広げる保育者に求められる知識と実践力を身に付ける。</li> <li>・乳幼児の言語発達過程を概観し、5領域との関わりを理解する。</li> <li>・言葉の発達を促す援助のあり方について、保育計画、幼稚園教諭・保育士の役割、小学校との連携を理解する。</li> <li>・沖縄のわらべ歌、手遊び、沖縄の昔話、絵本の読み聞かせ等の演習を通して子どもの言葉の世界を広げる技能を身に付ける。</li> </ul>
授業の概要	<p>言葉は人間関係を含むすべての生活と関わっている。乳幼児が豊かな言葉や表現を身に付け想像する楽しさを広げるために、乳幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。また、「言葉とあそび演習①～⑥」においてはICTの活用を積極的に試み、保育現場におけるデジタル教材および機器等を活用する資質を高める。</p> <p>小学校教員として学校現場における実務経験のある担当教員が、その経験を活かし、幼稚園教育要領および保育所保育指針に示された内容について、具体的な例を紹介・解説し、教材の活用等、実践的な基礎技術を指導する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、人間と言葉（コミュニケーションと言葉・文化の創造と言葉） 人間にとって言葉がどのような働きをしているのか、また教育・保育がどのような役割を担っているのかについてその概要を学習する。</p> <p>【事前学習】1年次に学習した「幼児の言葉」の概要を想起する。 【事後学習】教科書の第1章を読み言葉の働きについてノートにまとめる。</p> <p>第2回 言葉の発達と環境（言葉の発達・言葉の育ちに必要な力） 胎児期から幼児期までの「言葉」の発達の道筋と言葉の育ちを支える環境の重要性について学ぶ。</p> <p>【事前学習】1年次に学習した、幼児の言葉の発達の道筋を調べておく。 【事後学習】教科書p50の学習課題をレポートにまとめる。</p> <p>第3回 子どもの心の育ちと「言葉」（子どもと遊び・想像力と創造力・動きや感動するこころ） 子どもが発することばにはどんな意味が込められているのか、子どもたちは何を感じ、思い、体験しながら私たち大人に語りかけているのか事例から学ぶ。</p> <p>【事前学習】ごっこ遊び、劇遊びの教育的意義を調べる。 【事後学習】子どもの遊びに保育者としてどのように関わるとよいか考察しノートにまとめる。</p> <p>第4回 保育の専門性と言葉①（子ども理解と寄り添うことから生まれる言葉・育ち合う保育者として） 子どもたちが園で安心して生活を送ることができるよう子どもに寄り添った関わりの大切さを学ぶ。</p> <p>【事前学習】授業前に教科書第5章を読んでノンバーバル・コミュニケーションについて調べる。 【事後学習】子どもに寄り添うとはどのようなことなのか考察しノートにまとめる。</p> <p>第5回 保育の専門性と言葉②（保育者としての言葉・保護者への対応と言葉） 保育者自身が発する言葉は子どもたちのモデルであることや、言葉の問題に限らず保護者との対応は信頼関係が大切であることを学ぶ。</p> <p>【事前学習】自分自身の生活の中で、言葉で失敗したことを想起し、ノートに記録しておく。 【事後学習】教科書の事例を読んで考察しレポートにまとめる。</p> <p>第6回 小学校教育と言葉（領域「言葉」と小学校教育「国語」・小学校との連携） 小学校学習指導要領「国語科」と領域「言葉」の繋がりについて学ぶ。</p> <p>【事前学習】小学校学習指導要領「国語科」について調べる。 【事後学習】小学校学習指導要領「国語科」と幼稚園教育要領「言葉」の相違をレポートにまとめる。</p> <p>第7回 言葉とあそび演習①（乳幼児の言葉遊び・わらべ歌）（指導案作成） 幼児の言葉を育む言葉遊び（わらべ歌）を活用した部分指導案を作成する。</p> <p>【事前学習】1年次で習得したわらべ歌を想起し歌えるように練習する。 【事後学習】作成した部分指導案を提出する。</p> <p>第8回 言葉に課題をかかえる子どもと保育①（気になる言葉の遅れ・言葉の障害の種類） 言葉に課題を抱える子の遅れの原因は何なのか言葉の障害の種類を調べる。</p> <p>【事前学習】第7章の事例1、事例2を読んで考察しノートにまとめる。 【事後学習】事例3を読んで考察しレポートを提出する。</p> <p>第9回 言葉に課題をかかえる子どもと保育②（言葉を育てる保育の支援） 保育所や幼稚園ではどのような対応を行えばよいのかより適切な対応の仕方を学ぶ。</p>

第10回	<p>【事前学習】言葉に障がいがある子への対応の仕方を自分なりに考えノートにまとめる。 【事後学習】幼児期の音韻認識遊びを実践し学んだことや考えたことをノートにまとめる。</p> <p>言葉とあそび演習②（沖縄の昔話を素話で語る）（模擬保育） 語り手自身の声と顔の表情だけで沖縄に伝わる昔話、伝説を語る。（模擬保育）</p>
第11回	<p>【事前学習】沖縄の昔話や伝説を選定し口演できるように練習する。 【事後学習】模擬保育として口演した際の振り返り・感想を書き提出する。</p> <p>言葉とあそび演習③（沖縄の昔話を素話で語る）（模擬保育の振り返り・評価） 昔話、伝説を通して子どもの中に育っていくものについて考える。（模擬保育の振り返り・評価）</p>
第12回	<p>【事前学習】昔話を口演したあとの振り返りから学んだことをレポートにまとめる。 【事後学習】今後昔話をどのように広げられるかレポートにまとめる。</p> <p>保育をとりまく現代的課題と言言葉 言葉と現代的課題について、子どもを取り巻く環境を多面的に見つめ保育者としての課題とその役割を考える。</p>
第13回	<p>【事前学習】第8章を読んでメディア・リテラシーについて調べる。 【事後学習】自分の生活とメディアについてノートにまとめる。</p> <p>言葉とあそび演習④（絵本の読み聞かせ・読みのスキルアップ） 言葉を通して子どもの言葉と心をはぐくむ児童文化財としての「絵本」の読み聞かせのスキルアップを図る。（グループ単位）</p>
第14回	<p>【事前学習】絵本を選定し読み聞かせの練習をする。 【事後学習】読み聞かせの留意点（聞き手との距離感）に気をつけて絵本を読む。</p> <p>言葉とあそび演習⑤（紙芝居の演じ方） 日本独特のメディアをして発展した「紙芝居」を演じ保育者としてのスキルアップを図る。（グループ単位）</p>
第15回	<p>【事前学習】紙芝居を選定し演出資料に沿った練習をする。 【事後学習】自分なりの演出ノートを作成し提出する。</p> <p>言葉とあそび演習⑥（劇あそびの教育的意義） 児童文化財を通して、子どものイメージがより豊かに広がるための保育者の援助方法を考える。</p>
第16回	<p>【事前学習】第9章を読み児童文化財について調べる。 【事後学習】「言葉指導法」全体のまとめをする。</p> <p>まとめ・定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組【○】絵本の読み聞かせ等児童文化財の演習においてグループで討議しよりよい発表ができるようにする 2) 情報リテラシーに関する科目【○】 3) ICTの活用【○】スマホでわらべ歌手遊び等を取り込み歌い方遊び方を共有する 4) 初年次教育</p>
テキスト	生活事例からはじめるー保育内容ー言葉（徳安敦・堀科編、青踏社）平成18年 幼稚園教育要領（フレーベル館） 幼稚園教育要領解説（フレーベル館）
参考書	保育言葉の実際【第2版】（大久保愛・長沢邦子編著、建帛社） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館） 保育所保育指針（フレーベル館） 保育所保育指針解説（フレーベル館）
評価方法	受講態度（30%）、演習（沖縄の昔話・絵本の読み聞かせ等）での発表（50%）、課題の提出状況と内容（20%）
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 【○】2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【 】3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【○】4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	学生としての本分と保育者としての自覚に基づき、自身が豊かな言葉で話せるようにする。 絵本カード作製と提出（必須） グループ活動への参加と発表の取り組み（評価対象になる）
オフィスアワー	（仮）毎週木曜日3限目 山盛研究室
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価後に返却します。

講義科目名称： 音楽表現指導法

授業コード：

英文科目名称： Teach. Meth. of Mu. Exp. of Children

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
仲松あかり・奥原友紀乃			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3231216		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 音楽表現の基礎技術の習得と教材研究</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽表現の基礎技術が修得できる。</li> <li>・幼児教育現場や保育現場で活用できる教材研究を通して、音楽表現ができる。</li> <li>・幼児教育現場や保育現場で活用できる教材研究等に、意欲を持って取り組める。</li> </ul>
授業の概要	<p>身体を通して音楽を感じ、考え、表現することや、音楽表現に必要な技術とその方法論を学ぶ。また、幼児教育現場や保育現場で活用できる手遊びや歌遊び、音楽的身体創作表現など、具体的な教材研究を踏まえ、指導案作成や模擬保育を通して発展的、総合的に指導の工夫ができるようにする。更に、これらを活かし、歌を歌ったり楽器などを用いて「表現」の楽しさを感じられるようにする。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、領域「表現」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園・保育要領」、「保育所保育指針」の領域「表現」について学ぶ。</li> <li>・イントロダクションにボイス・アンサンブルを学ぶ。</li> <li>【事前学習】「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園・保育要領」、「保育所保育指針」の領域「表現」についての部分を読む。</li> <li>【事後学習】ボイス・アンサンブルで学習したリズムを復習する。</li> </ul> <p>第2回 リトミック音楽教育の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダルクロワズ教育法について：リトミックの発祥地である、スイスのリトミック音楽教育をDVD学習を通して学び、リトミックの原点を知る。(ICTの活用についてふれる)</li> <li>・DVD学習の感想を提出する。</li> <li>【事前学習】テキストp. 68-72を読み、リトミックについて考察する。</li> <li>【事後学習】テキストp. 56-67を読み、リトミックの他にも様々な音楽教育があることを学ぶ。</li> </ul> <p>第3回 拍の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎リズムのリズム打ちとステップ(歩く、ゆっくり歩く、走る、スキップ)を獲得する。</li> <li>・ボディー・パーカッションを学ぶ。</li> <li>【事前学習】ボディー・パーカッションにはどのようなものがあるか調べる。</li> <li>【事後学習】基礎リズムを復習し、リズム打ちとステップを確実に身につける。</li> </ul> <p>第4回 リズムパターンとフレージング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムパターンとフレージングについて幼児曲を活用して学ぶ。</li> <li>・ボディー・パーカッションを学ぶ。</li> <li>・手遊び、歌遊びを学ぶ。</li> <li>【事前学習】手遊びもしくは歌遊びを、少なくとも一つ習得する。</li> <li>【事後学習】ボディー・パーカッションで学んだ様々なリズムを、正確に叩けるよう復習する。</li> </ul> <p>第5回 教材研究①ー楽曲の音楽的イメージによる身体表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある楽曲を聞き、音楽の強弱やテンポ、楽曲の展開などについて考え、各グループで創意工夫し発表する。(ICTの活用)</li> <li>・各グループのパフォーマンスを相互に評価し合い、ディスカッションする。</li> <li>・手遊び、歌遊びを学ぶ。</li> <li>【事前学習】手遊びもしくは歌遊びのレパートリーを増やす。</li> <li>【事後学習】様々な楽曲を聞き、音楽的イメージを考える。</li> </ul> <p>第6回 リズムパターンとポリリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムパターンとポリリズムについて学ぶ。</li> <li>・ポリリズムのリズム打ちやステップを行う。</li> <li>【事前学習】ポリリズムについて調べる。</li> <li>【事後学習】ポリリズムを正確に叩けるよう復習する。</li> </ul> <p>第7回 教材研究②ー拍子感とアナクルーシス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拍子感とアナクルーシスについて、簡易楽器やボールを使って学ぶ。</li> <li>・音楽的な拍子感(4拍子・3拍子・2拍子)について、身体で理解し獲得する。</li> <li>・アナクルーシスについて、音楽でいかに重要か身体を通して理解し獲得する。</li> <li>【事前学習】テキストp. 124-196に目を通し、どのような拍子があるか考察する。</li> <li>【事後学習】拍子の復習として、異なる拍子の楽曲を歌うなどし理解を深める。</li> </ul> <p>第8回 教材研究③ー3拍子とカノン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぞうさん」、「エーデルワイス」など既成曲を歌唱しながら、3拍子を身体で理解し獲得する。</li> <li>・カノンについて学ぶ。</li> <li>・「うみ」を題材とし、小学校の音楽との学びの連続性について考える。</li> <li>【事前学習】3拍子の幼児曲を歌うもしくはピアノで練習する。</li> <li>【事後学習】友人と共に、カノンで歌うもしくはリズム打ちを行い、カノンを獲得する。</li> </ul> <p>第9回 教材研究④ー幼児曲を題材にした身体創作表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児曲を題材にして、各グループで音楽的身体創作表現を創意工夫して発表する。</li> <li>・各グループのパフォーマンスを相互に評価し合い、ディスカッションする。</li> <li>【事前学習】幼児曲を少なくとも1曲選択し、どのような表現ができるか考える。</li> </ul>

第10回	<p>【事後学習】事前学習にて選択した楽曲で、事前学習とは異なる表現を考える。</p> <p>教材研究⑤ー合奏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な楽器の名称及び奏法を学ぶ。</li> <li>・合奏の題材を各グループで選択し、練習を踏まえて発表する。</li> </ul> <p>【事前学習】テキストp.114-120に目を通し、様々な楽器について考察する。</p> <p>【事後学習】合奏の練習と発表を踏まえ、楽器の名称及び奏法を復習し獲得する。</p>
第11回	<p>模擬保育①ー手遊び、歌遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手遊びもしくは歌遊びを選曲し、模擬保育を想定したグループ発表をする。(学生のICT活用を含む)</li> <li>・各グループの発表を相互に評価し合い、ディスカッションする。</li> </ul> <p>【事前学習】手遊びもしくは歌遊びを練習し確実に覚える。</p> <p>【事後学習】より多くの手遊びを習得できるよう練習する。</p>
第12回	<p>指導案作成①ー指導案の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究①～⑤の題材から選択し、模擬保育の指導案をグループで作成する。</li> </ul> <p>【事前学習】これまでに行った教材研究①～⑤を復習する。</p> <p>【事後学習】指導案の完成と模擬保育の実施に向け、必要な準備や練習をする。</p>
第13回	<p>指導案作成②ー指導案の完成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導案を完成させ、模擬保育に向けグループで役割分担や練習をする。</li> </ul> <p>【事前学習】個人で行えるピアノなどの練習をする。</p> <p>【事後学習】模擬保育に向け、不足している物や練習がないか確認する。</p>
第14回	<p>模擬保育②ー指導案を元に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・完成した指導案を元に、保育者役と子ども役にわかれグループで模擬保育を行う。</li> </ul> <p>【事前学習】指導案の流れを覚え、スムーズに模擬保育が行えるようイメージする。</p> <p>【事後学習】模擬保育の自己反省をまとめる。</p>
第15回	<p>模擬保育の振り返り、まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで行った模擬保育を振り返り、相互に評価し合いディスカッションする。</li> <li>・授業のまとめを行う。</li> </ul> <p>【事前学習】自己反省に加え、他のグループの模擬保育で気付いた点をまとめる。</p> <p>【事後学習】これまでの学習を振り返り、模擬保育の反省を含めたレポートを提出する。</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組【○】第5.9.10.11.12.13.14回の授業において、グループで協力して取り組む。</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p>
テキスト	井口太代表編著 『新・幼児の音楽教育ー幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導ー』朝日出版社 2018年 必要に応じて適宜コピー資料を配布する
参考書	<p>文部科学省 「幼稚園教育要領」フレーベル館 2017年</p> <p>文部科学省 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 2018年</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」フレーベル館 2017年</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館 2018年</p> <p>厚生労働省 「保育所保育指針」フレーベル館 2017年</p> <p>厚生労働省 「保育所保育指針解説」フレーベル館 2018年</p> <p>必要に応じて適宜資料を配布する</p>
評価方法	<p>①受講者の発表30% (教材研究①～⑤への取り組みと発表の参加度を、グループ課題により評価)</p> <p>②小テスト及びレポート課題35% (リズム唱、リズム打ち、リズムステップ、カノンの実技と、教材研究発表後の感想などを含むレポート課題を、個人課題により評価)</p> <p>③指導案作成及び模擬保育25%</p> <p>④受講態度10%</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>【○】2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【○】3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</p> <p>【○】4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	軽装、室内シューズで受講すること。
オフィスアワー	仲松：木曜日3限目 仲松研究室 奥原：授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価して(採点・評価後)返却する。

講義科目名称： 造形指導法

授業コード：

英文科目名称： Teach.Me.of Fo. Art for Children

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
佐久本 邦華			
授業形態：演習	ナンバリング：EEM3231217		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	保育内容の各領域を総合的に捉え、幼児の造形活動における発達段階を学び、子どもの発育と造形活動との関わりを理解することができる。また、ものの色や形や質感に加え、音や匂いなどの五感を取り入れた表現活動を通して表現の面白さを確認し、表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身に付け、保育内容の展開や指導法を学ぶ。
授業の概要	はじめに領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて学び、幼児の表現が人を含む環境との関わり合いの中で変化することを知る。また国内外の保育研究で提唱されている実践・方法論などを通して課題を知り、造形表現活動の環境について考える。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、領域「表現」のねらい及び内容について 講義の概要説明、評価の方法、授業の進め方などについてのオリエンテーション実施後、映像や画像などを用いて乳幼児の活動する姿から「表現」を見出し、領域「表現」のねらい及び内容と関連付けることを通し、「表現」を理解する。 【事前学習】 保育所保育指針解説の領域「表現」に関する部分を読んでおく 【事後学習】 保育所保育指針「第2章 保育の内容」から、「表現」に関する部分を抜粋し、まとめる。</p> <p>第2回 幼児の表現活動の背景と、小学校での学びへの連続性 どのような出来事や人のかかわりが子どもの心を動かすのか。環境が幼児の表現にどのように関わるものなのかを理解する。 【事前学習】 幼稚園教育要領解説の領域「表現」に関する部分を読んでおく 【事後学習】 幼稚園教育要領の「第2章 ねらい及び内容」から、「表現」に関する部分を抜粋し、まとめる。</p> <p>第3回 造形表現活動の環境について レジャエミリアやPlayful Learningなどの海外の幼児造形の動向を映像や画像を用いて解説し、造形表現活動における物的環境、人的環境について考える。 【事前学習】 前回授業終了時に配布する資料を読んでおく 【事後学習】 海外の幼児造形活動における環境について気づいたことをまとめる</p> <p>第4回 インクルーシブ保育における表現活動の可能性 2006年12月に、国連総会において採択された「障害者の権利に関する条約」を基に、インクルーシブ教育についての概要を説明する。また、沖縄の障がい児・者による美術作品展を紹介し、インクルーシブ保育における表現活動の可能性について考える。 【事前学習】 沖縄ではどのような障がい児・者による美術展があるのか調べておく 【事後学習】 障がい児・者による美術表現や展覧会についての意見をまとめる</p> <p>第5回 触覚的アプローチを用いた表現活動の実践（教材研究） 学生が様々な表現活動を経験することを中心とする。小麦粉絵の具を作り、手や足で直接絵の具の感触を楽しみながら、ビニールや画用紙など、違う支持体へ描くことを経験することを通して、触覚的アプローチの特徴や面白さや留意点について理解する。 【事前学習】 触覚的アプローチで用いられる素材にはどのようなものがあるのか調べておく 【事後学習】 実践後の気づきと学びをまとめる</p> <p>第6回 偶然性を生かした様々な表現技法（教材研究） 学生が様々な表現活動を経験することを中心とする。絵の具流しやドリッピング、デカルコマーニーなど、偶然性を生かした表現を経験し、偶然性から生まれた色と形が子どもたちの想像力をどのように刺激するのかを考える。また、幼児の表現を受け止め共感し、声掛けなどのかかわり方によって表現が変化することを学ぶ。 【事前学習】 偶然性を生かした作風の芸術家を調べておく 【事後学習】 実践後の気づきと学びをまとめる</p> <p>第7回 自然環境を取り入れた表現活動の実践（教材研究） 自然（風・光・影など）や自然物（葉、木の実など）を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や活動の面白さ、留意点などを考える。沖縄の植物について学生自身の知識も深め、身の回りの自然がどのような色、形、そして匂いがあるのか五感を通して感じ、表現を楽しむことを学ぶ。 【事前学習】 自然物を用いた作品にはどのようなものがあるのか調べておく 【事後学習】 実践後の気づきと学びをまとめる</p> <p>第8回 五感を取り入れた表現活動の実践（教材研究） 音を聴いたり、匂いを嗅いだもの、時には味わったものを色と形で表現する。また逆に、色と形で表現されたものを音や身体で表現する活動を通して、表現することの楽しさ、面白さを知り、指導の留意点について考える。 【事前学習】 一日の内で聞こえてくる音にはどのようなものがあるのか、リストアップする</p>

第9回	<p>【事後学習】 実践後の気づきと学びをまとめる            廃材や身近な素材を用いた造形活動の実践（教材研究）            身近な素材（紙コップ・ペットボトルなど）を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や、活動の面白さ、留意点などを考える。また、幼児の製作意欲を刺激するために集まった素材をどう環境に配置していくのか、どういった声掛けが必要なのかを学生に考えてもらい提案の機会を与える。</p>
第10回	<p>【事前学習】 なるべくいろいろな種類の素材を集める            【事後学習】 実践後の気づきと学びをまとめる            幼児の実態に合わせた表現活動            年齢による発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動や遊びを広げるための言葉がけや教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える。表現は幼児の遊びや生活の中に見られること、表現は生活を豊かにすること、そのためには出会う人、もの、事柄に心動かされるような感性を保育者自身が身に付け、年齢に応じた環境を構成できることの大切さを確認する。</p>
第11回	<p>【事前学習】 前回授業終了時に配布される資料を読んでおく            【事後学習】 言葉がけや教材の提示方法について学んだことをまとめる            領域「表現」における情報機器及び教材の活用法            幼児の表現活動を幼児の間で共有し認め合うための方法の一つとして、画像や映像等を提示することを学ぶ。また、保育者や保護者にとつての幼児の表現活動を視覚化することの意味や効果についても学ぶ。授業では学生同士が、作品を製作する過程を記録し合い、お互いに鑑賞・評価することをとおして視覚化することの意味を経験を基に学ぶ。</p>
第12回	<p>【事前学習】 動画や画像を撮り共有する方法を学ぶ            【事後学習】 各自動画を完成させる            総合的な表現活動の実践（指導案作成）            グループを編成し、各グループにおいて幼児の実態に応じ、既存の表現活動を基に指導案の作成、教材研究を行う。</p>
第13回	<p>【事前学習】 グループで対象にする幼児の年齢、人数などを決めておく            【事後学習】 授業内容をもとに指導案を完成させる            指導案を基にした教材研究（教材研究）            各グループの指導案を発表し、意見交換を行う。幼児に身に付けてほしい事柄や経験から教材研究を再考し、既存の表現活動から応用・発展できるような指導案を再作成する。</p>
第14回	<p>【事前学習】 各グループで必要な道具を準備しておく            【事後学習】 各グループからの意見をもとに、指導案を修正する            模擬保育と振り返り（模擬保育）            第12回～第13回で作成した指導案を踏まえ、幼児の表現する様子を予想し、保育の場における表現活動を中心とした模擬保育を行う。幼児の表現がさらに育まれるための活動のねらいや設定、教材や道具、教材研究の適切さ、言葉がけなど振り返り、意見交換を行い、学びを深める。</p>
第15回	<p>【事前学習】 各グループでリハーサルを行い、必要な道具を準備しておく            【事後学習】 模擬保育を通して出た反省点をもとに、指導案を修正し、ポートフォリオと一緒に提出する            保育における造形教育            これまで学んできた幼児の造形表現活動を振り返り、幼児が心を動かされ、「表現」することを通して「健康な心と体」が育まれていくことについて再考する。製作だけではなく道具や材料の譲り合い、後片付けを通して「道徳心」も芽生える。人と関わり、自然と関わることを通して他者への理解力も培われる。保育における造形教育、そして表現について考える。</p>
第16回	<p>【事前学習】 前回授業最後に配布される資料を読んでおく            【事後学習】 返却されたポートフォリオ、講義中にもらった資料をまとめる            なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 指導案の作成、模擬授業、振り返りでグループワークを行う。            2) 情報リテラシーに関する科目 【○】            3) ICTの活用 【○】            表現活動の視覚化のためにカメラやタブレット等で記録を撮り、それらを提示することで情報を共有し、鑑賞・評価に役立てる。            4) 初年次教育 【 】</p>
テキスト	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館            文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p>
参考書	<p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館            内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館            厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館            厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館            久富陽子編『幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方』（萌文書林, 2016）、福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアートプロジェクトアプローチの実践から一』（小学館, 2015）、槇英子『保育をひらく造形表現』（萌文書林, 2011）</p>
評価方法	<p>全授業を通して、学習内容の様子や気づきをポートフォリオにまとめ、学生自身の学びが可視化されたものを中心に学びの過程を評価する（70%）、そのうえで最終レポートで学びの成果を評価する（30%）。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。            成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。            秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている            優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している            良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している            可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している            不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p>

	欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>【○】 2. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】 3. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】 4. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物が 필요합니다。詳しくはオリエンテーション時に説明します。
オフィスアワー	火曜日2限・金曜日3限 佐久本研究室
課題に対するフィードバック方法	ポートフォリオを回収・採点し、試験期間を利用して学生へ返却する。